



124-1085

祖國  
日向の展望

394  
429

0  
1  
2  
3  
4  
5  
6  
7  
8  
9  
60  
1  
2  
3  
4  
5

始

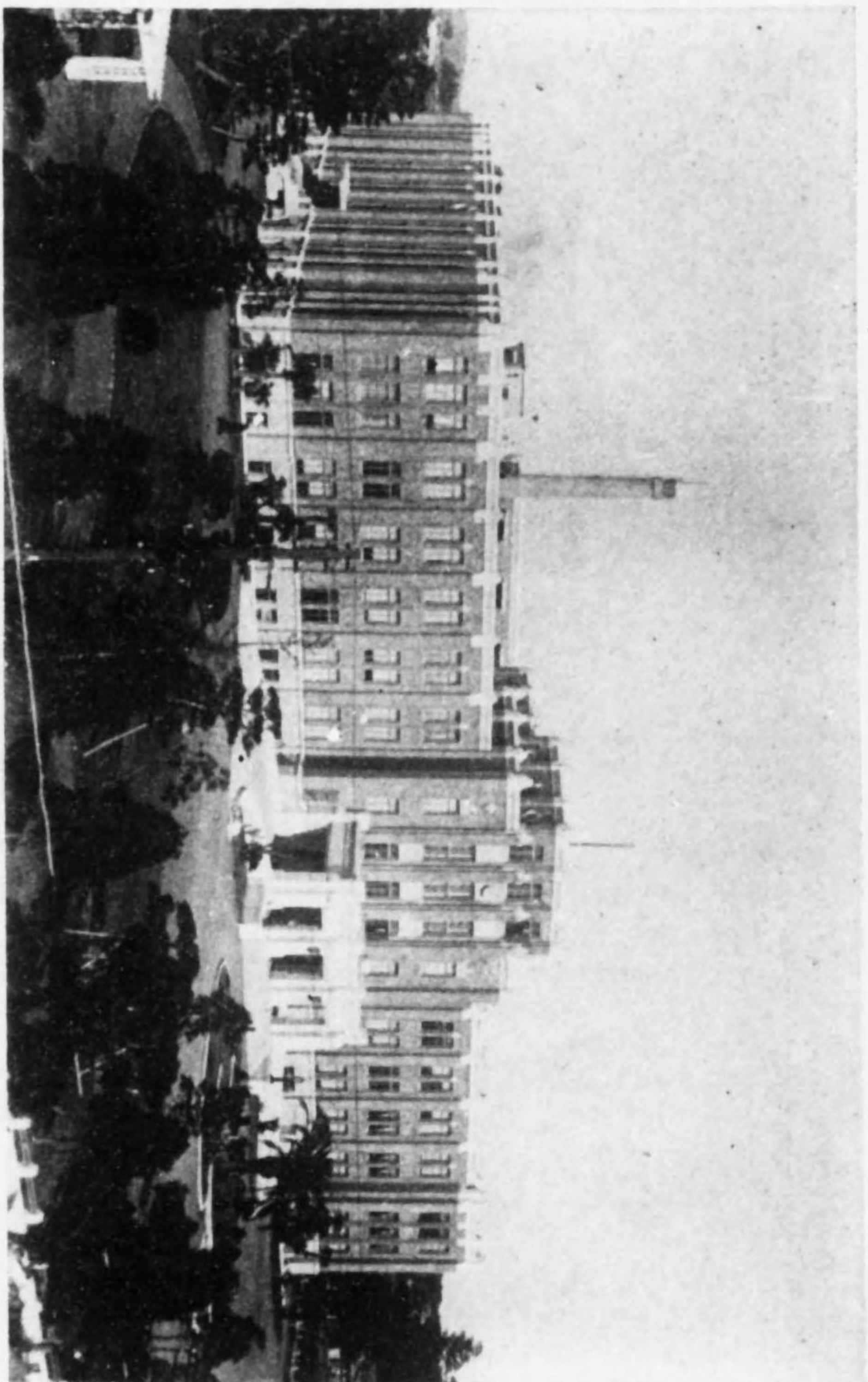


特263  
80



向日辰堂





宮崎縣廳







### はしがき

祖國日向は日本歴史の第一頁より親しみ深い土地である。そこには限りなき史蹟があり傳説が存し美しい自然の奇勝があり絶景がある。而して又氣候温暖にして膏腴なる天恵を有し各種の産業年と共に發達しつつある。ここから生れ出づるものは美しい詩であり情趣豊かな唄である。夏しらの國、冬しらの日向は、まことに避暑、避寒の地であり、永久移住の理想郷である。最近交通機關の備はるに伴ひ、この自然の風光を賞で又は史蹟を尋ねて足を運ぶもの常に絶ゆる時がない。本書素より其の梗概に過ぎないけれども本縣に足を入れらるゝ大方諸賢の資しい伴侶となり、聊か参考ともならばと思ひ編纂するものである。

宮崎縣民歌

歌詞

一、亞細亞の東端、  
 此處建國の發祥地  
 二、白雲なびく山の幸、  
 千里の沃野、天惠の  
 三、鷄、黎明を告げたり  
 いざ更生の意氣高く

燦たる旭直射せる  
 悠久二千六百年  
 黒潮よする海の幸  
 無盡の寶庫吾が日向  
 駒原頭に嘶けり  
 祖國の譽顯はさん

桑原節次作詞  
古園裕而作曲

奥山貞吉編曲  
神崎博志振付

## 宮崎縣勢數へ眼

(數字は昭和十三年ノ事實)

一ツトヤ廣さは五百一方里天惠豊かな宮崎縣  
二ツトヤ殖える人口の其の數は毎月一千有餘人  
三ツトヤ水の力の發電量凡そ二十萬キロワット  
四ツトヤ養蠶戸數三萬戸繭收量が千萬貫  
五ツトヤ生絲の產額八百萬(圓)人造絹絲その三倍  
六ツトヤ村が六七、町十九、三市合せて八十九  
七ツトヤ波の花散る海岸は延長七十有七里  
八ツトヤ山の產物三千萬(圓)礦產物が七百萬(圓)  
九ツトヤ米は日向の主產物百萬石を上下せり  
十ツトヤ特產物も數多し椎茸、南瓜、基石など

十一ツトヤ一戸の生産千三百(圓)負擔は凡そ六十圓  
十二ツトヤ鮪や鯛や鰯などの水産價額が一千萬(圓)  
十三ツトヤ歳入一千一百萬歳出一千六十萬(圓)  
十四ツトヤ四季を通じて氣候よし平均温度が十七度  
十五ツトヤ耕地面積九萬餘町農家戸數が約八萬  
十六ツトヤ労働不足も懸念なく農産價格が季八百萬(圓)  
十七ツトヤ質も優良な工產品產額凡そ七千萬(圓)  
十八ツトヤ橋や道路の延長は國、縣合せて六百里  
十九ツトヤ國が有する面積は凡そ十八萬九千町  
二十ツトヤ住民今や八十六萬いそしみ富ませ我日向

## 凡例

- 一、本書は從來刊行せし宮崎縣々勢要覽を若干其の編纂の趣を替へ改題したるものなり
- 一、本書は統計を主として縣勢の大要を觀察する爲めに編纂したるものなるも祖國としての日向及郷土の名勝、舊蹟等をも廣く紹介するの意に於て之等の事項をも概畧集録せり
- 一、書中部類を總覽、統計表、附録の三部に區分し統計表は更に分ちて次の二十三部門とす  
土地、氣象、戸口、生産額、農業、蠶絲業、畜産業、林業、漁業、鑛業、工業、商業、金融及貯蓄、土木、交通、教育、社寺兵事、社會事業、衛生、警察、議會、財政、官公吏及文書
- 一、書中の統計は主として昭和十三年の事實を掲載す。雖本書上梓迄に材料の蒐集不能のものは昭和十二年の事實を掲載し尙既往に遡り累年の計數を列記し以て比較に便じたり
- 一、卷末列國國勢要覽は内閣統計局編纂にかゝる列國々勢要覽を拔萃したるものにして世界の大事勢を示して國勢比較の參考たらしめんとするものなり
- 一、編中の事實は概ね全管内を總括して之を掲げ其の特に一郡又は一部の事實を知るを要するものは之を區分掲載せり
- 一、表中題目の下に何年とあるは曆年間の事實、何年度とあるは其の年四月一日より翌年三月三十一日迄の事實、何年何月何日とあるは其の日の現在なり



一、數位は概ね圓、坪、段、石及貫等の一位に止め以下の小数は概ね四捨五入す。雖も一位以下の小数を知る必要あるものは其の單位に「・」を附して掲記す而して「c」を附するものは計數の一位に満たざるものにして事實なきものは「-」を附し不詳のものは「?」の符號を附せり

一、編中の計數にして往々「メートル」法又は「ヤード、ポント」法の度量衡に據るものあるを以て尺貫法度量衡との比較を示せば次の如し

「ヤード、ポント」法		「メートル法」	
碼 (ヤード)	三尺一分七五	米 (メートル)	三尺三寸
鐵 (チエイン)	十一間三寸八五四四	糶 (センチメートル)	三分三厘
哩 (マイル)	十四町四十五間八寸三五	耗 (ミリメートル)	三厘三毛
呎 (フート)	一尺〇〇五八四	量立 (リットル)	五合五勺四三五
吋 (インチ)	八分三厘八二	瓦 (グラム)	二分六六六七
量 (ガロン)	二升〇九八四六	瓦 (キログラム)	二百六十六匁六六六七
封度 (ポンド)	百二十匁九六	「箇 數」	
噸 (ト ン)	二百七十貫九五〇四	哥 (グ ロ ッ ス)	百四十四箇
衡 (オンス)	七匁五六	打 (ダ ブ ル)	十二箇

宮崎縣總務部統計課

目次

土地

- 一 官民有地總面積 ..... 五
- 二 官有地 ..... 六
- 三 民有々租地 ..... 六
- 四 民有免租地 ..... 七
- 五 年期地 ..... 七

氣象

- 六 宮崎氣象 ..... 二
- 七 縣内氣象(氣 温) ..... 二
- 八 縣内氣象(降水量) ..... 三

(目次)

戶口

- 九 國勢調査人口 ..... 一七
- 一〇 配偶關係別人口(昭和十年國勢調査) ..... 一八
- 一一 現在人口及常住人口(昭和十年國勢調査) ..... 一九
- 一二 職業(大分類)別人口(昭和五年國勢調査) ..... 二〇
- 一三 出生地別人口ノ一(昭和五年國勢調査) ..... 二二
- 一四 出生地別人口ノ二(昭和五年國勢調査) ..... 二三
- 一五 戶數及人口 ..... 二三
- 一六 産業別現住戶數 ..... 三三
- 一七 職業別現住人口 ..... 三三
- 一八 出入人口 ..... 三四

一九	本籍人動態ノ一(婚姻及離婚)	壹
二〇	本籍人動態ノ二(出生及死亡)	貳
二一	現在人動態	參
生産額		
二二	生産價額(累年比較)	伍
農業		
二三	農產物價額(累年比較)	陸
二四	耕作耕地廣狹別農家戸數	陸
二五	耕地所有別農家戸數	陸
二六	耕地整理	陸
二七	米	陸
二八	米穀検査	陸
二九	大麥	陸
三〇	小麥	陸
三一	小麥	陸

三二	燕麥	七
三三	食用農產物	七
三四	園藝農產物(果實)	七
三五	園藝農產物(蔬菜及花卉)	七
三六	工藝農產物	七
三七	農產製造物	七
三八	果樹苗	七
三九	桑苗	七
四〇	桑畑及茶畑	七
四一	綠肥用作物	七
四二	飼料用作物	七
四三	小作爭議ノ一(件數別)	七
四四	小作爭議ノ二(原因別)	七
四五	小作爭議ノ三(調停者別)	七
四六	小作爭議ノ四(調停結果別)	七
四七	勸業費豫算	七
四八	自作農創設維持資金	七

蠶絲業

四九	蠶種	八
五〇	養蠶戸數	八
五一	繭產額	九
五二	蠶絲類及真綿	九

畜産業

五三	畜產物價額(累年比較)	九
五四	牧場	九
五五	獸醫師及蹄鐵工	九
五六	家畜	一〇
五七	家禽	一〇
五八	屠殺	一〇
五九	牛乳	一〇
六〇	蜜蜂	一〇
六一	候補種畜	一〇

林業

六二	市	一〇
六三	家畜保險	一〇
林業		
六四	林產物價額(累年比較)	一〇
六五	林野面積	一〇
六六	國有林野箇所及面積	一一
六七	國有地施業按	一一
六八	保安林面積	一一
六九	公有林野面積	一一
七〇	造林用苗圃面積	一一
七一	造林用苗木	一一
七二	國有林植栽	一一
七三	公有林野植栽	一一
七四	公有林野天然造林	一一
七五	私有林野天然造林	一一
七六	國有林伐採	一一

(目次)

七七	公有及社寺有林伐採	一三八
七八	私有林伐採	一三九
七九	林野被害	一四〇
八〇	公有私有林野放牧	一四〇

漁業

八一	水產物價額(累年比較)	一三七
八二	水產業者	一三八
八三	漁船	一三九
八四	遠洋漁業	一四〇
八五	沿岸漁獲物	一四〇
八六	水產養殖	一四〇
八七	水產製造物	一四〇
八八	礦物採掘及製出	一四九
八九	採掘礦區及坪數	一四九

鑛業

一〇五	籐製品	一六三
一〇六	菓製品	一六三
一〇七	蠶製品	一六四
一〇八	植物油	一六四
一〇九	酒類	一六五
一一〇	樟腦及樟腦油	一六五
一一一	製茶	一六六
一一二	砂糖、乳肉製品及罐詰	一六六
一一三	肥料製造高	一六七
一一四	度量衡器	一六七
一一五	和紙	一六七
一一六	染物	一六八
一一七	賃錢	一六八
一一八	電氣事業	一七一

商業

一二九	會社ノ一(資本金別)	一七七
-----	------------	-----

(目次)

九〇	石材	一五〇
----	----	-----

工業

九一	工產物價額(累年比較)	一五三
九二	工場	一五四
九三	機業場數、機臺數及職工數	一五六
九四	織物產額	一五七
九五	疊表、莫產及花莖	一五七
九六	製絲	一五八
九七	帽子	一五八
九八	陶磁器	一五九
九九	漆器	一五九
一〇〇	瓦及土管	一六〇
一〇一	澱粉	一六〇
一〇二	柁柳及メリヤス製品	一六一
一〇三	木製品	一六一
一〇四	竹製品	一六二

一二〇	會社ノ二(組織別及營業別)	一七七
一二一	產業組合ノ一(組合數)	一七九
一二二	產業組合ノ二(事業成績)	一八〇
一二三	縣外移出移入總價額	一八〇
一二四	重要物產移出(價額十萬圓以上ノモノ)	一八〇
一二五	重要物產移入(價額十萬圓以上ノモノ)	一八三
一二六	陸運移出移入品價額ノ一(陸路)	一八五
一二七	陸運移出移入品價額ノ二(鐵道)	一八五
一二八	海運移出移入品價額(海路)	一八九
一二九	重要物產平均相場	一九〇

金融及貯蓄

一三〇	銀行	一九七
一三一	銀行預金	一九八
一三二	銀行貸金	一九九
一三三	貸出金年末殘高抵當別	二〇〇
一三四	銀行出入金預ケ金有價證券及通貨在高	二〇〇

一三五	內國爲替	二〇一
一三六	郵便貯金	二〇一
一三七	郵便爲替	二〇三
一三八	質屋貸金	二〇四
一三九	質屋金利歩合	二〇四
一四〇	供託件數及供託物價額	二〇五
一四一	不動產船舶登記件數	二〇六
一四二	無盡業	二〇六
一四三	無盡契約高給付金額別	二〇七
一四四	無盡契約高郡市別	二〇八
<b>土 木</b>		
一四五	土木工費ノ一(累年比較)	二二三
一四六	土木工費ノ二(通常災害別)	二二三
一四七	土木工費ノ三(負擔別)	二二四
一四八	橋 梁	二二五
一四九	災 害	二二五

一五〇	道路延長	二二六
<b>交 通</b>		
一五一	元標諸官衙間里程	二二九
一五二	著大橋梁	二三〇
一五三	社營宮崎鐵道	二三四
一五四	港 灣	二三五
一五五	燈 臺	二三六
一五六	入港船舶ノ一(登簿噸數)	二三九
一五七	入港船舶ノ二(乗降船客)	二三九
一五八	船 舶	二四〇
一五九	諸 車	二四〇
一六〇	郵 便	二四〇
一六一	電 信	二四一
一六二	電 話	二四一
一六三	縣内市町村間里程	二四三
一六四	鐵道軒程並運賃	二四四

**教 育**

一六五	學齡兒童	二五五
一六六	學齡兒童就學猶豫及免除	二五五
一六七	公立小學校及學級	二五六
一六八	公立小學校教員	二五七
一六九	公立小學校教員俸給	二五八
一七〇	公立小學校兒童	二六〇
一七一	公立小學校卒業兒童	二六〇
一七二	公立小學校入學兒童	二六一
一七三	公立小學校 <sup>尋常</sup> 兒童日々出席缺席平均	二六一
一七四	市町村立小學校教員住宅	二六二
一七五	小學校教員檢定人員	二六三
一七六	幼稚園	二六三
一七七	市町村立小學校教員在職年數	二六四
一七八	學校長、幼稚園長、教員、保母	二六五
一七九	學事研究並視察ニ關スル旅行調	二六六
一七九	師範學校	二六六

一八〇	中學校	二六七
一八一	公立中學校卒業者卒業後ノ狀況	二六八
一八二	高等女學校	二七〇
一八三	實科高等女學校	二七一
一八四	農 學 校	二七二
一八五	工業學校	二七四
一八六	商業學校	二七四
一八七	女子高等技藝學校	二七五
一八八	宮崎高等農林學校	二七六
一八九	公立青年學校	二七七
一九〇	公立青年學校教員養成所	二七八
一九一	圖書館	二七八
一九二	市町村學務委員	二七九
一九三	公立盲學校	二七九
一九四	公立聾啞學校	二八〇
一九五	各種學校	二八〇
一九六	男女青年團	二八二

(目次)

一九七 縣公學費……………二八二  
 一九八 市公學費……………二八三  
 一九九 町村公學費……………二八四  
 二〇〇 縣公學資產……………二八五  
 二〇一 市公學資產……………二八六  
 二〇二 町村公學資產……………二八六

社 寺

二〇三 神社及神職……………二八九  
 二〇四 寺院及住職……………二九〇  
 二〇五 神饌幣帛料供進指定神社……………二九〇  
 二〇六 神道教會所及說教所……………二九一  
 二〇七 佛道教會所及說教所……………二九一  
 二〇八 基督教會及宣布者……………二九一

社會事業

二〇九 救護法ニ依ル救護……………二九五

二一〇 行旅病人及死亡人……………二九六  
 二一一 釋放者保護……………二九六  
 二一二 日本赤十字社宮崎支部……………二九七  
 二一三 愛國婦人會宮崎縣支部……………二九七  
 二一四 公益質庫……………二九八  
 二一五 罹災救助……………三〇〇

衛 生

二一六 病 院……………三〇三  
 二一七 醫 師……………三〇四  
 二一八 齒科醫……………三〇四  
 二一九 藥劑師及藥種商製藥者……………三〇五  
 二二〇 產婆、看護婦……………三〇六  
 二二一 特種營業者トラホーム檢診成績……………三〇六  
 二二二 傳染病……………三〇七  
 二二三 種痘成績……………三〇八  
 二二四 藥品巡視成績……………三〇九

二二五 飲料水檢查成績……………三〇九  
 二二六 娼妓健康診斷……………三一〇  
 二二七 中 毒……………三一〇  
 二二八 上水道……………三一  
 二二九 埋火葬……………三一  
 二三〇 傳染病院隔離病舎……………三二  
 三三一 市町村傳染病豫防費縣費補助額……………三二  
 三三二 賣 藥……………三三

警 察

二三三 警察職員配置ノ一(警察部)……………三七  
 二三四 警察職員配置ノ二(警察署)……………三七  
 二三五 警察官吏勤續年數……………三八  
 二三六 巡查志願者及採用者年齡……………三九  
 二三七 採用巡查教育程度……………三九  
 二三八 採用巡查職業……………三九  
 二三九 警察官吏年齡……………三九

(目次)

二四〇 警察官吏職務上ノ傷痍疾病……………三三〇  
 二四一 工場法適用工場……………三三一  
 二四二 火 災……………三三一  
 二四三 火災原因……………三三三  
 二四四 林野火災……………三三三  
 二四五 林野火災原因……………三三四  
 二四六 消防組……………三三四  
 二四七 遺失物及拾得物……………三三五  
 二四八 未成年者喫煙禁止法及飲酒禁止法違反……………三三五  
 二四九 自動車運轉者(兵役關係者ヲ除ク)……………三三六  
 二五〇 交通事故……………三三七  
 二五一 受發文書……………三三八  
 二五二 健康保險法適用工場、鑛山、事業場別被保險者ノ一(政府管掌)……………三三九  
 二五三 健康保險法適用工場、鑛山別被保險者ノ二(健康保險組合管掌)……………三三〇  
 二五四 健康保險法適用工場、鑛山、事業場郡市別被保險者……………三三〇

議會

二五五 貴族院議員互選權……………三三七  
 二五六 衆議院議員選舉……………三三八  
 二五七 縣會議員選舉……………三三九  
 二五八 縣會、縣參事會……………三三九  
 二五九 市町村會……………三四〇

財政

二六〇 租稅外國庫收入……………三四三  
 二六一 國庫支出縣經費……………三四三  
 二六二 縣歲入(決算額)……………三五二  
 二六三 縣歲出(決算額)……………三五三  
 二六四 市町村歲入(決算額)……………三五七  
 二六五 市町村歲出(決算額)……………三五九  
 二六六 普通水利組合費歲入歲出(決算額)……………三六一  
 二六七 水害豫防組合費歲入歲出(決算額)……………三六二

官公吏及文書

二六八 諸稅負擔額(賦課額ニヨル)……………三六二  
 二六九 國稅(收入濟額)……………三六四  
 二七〇 國稅滯納……………三六五  
 二七一 縣稅(收入濟額)……………三六五  
 二七二 縣稅滯納……………三六六  
 二七三 市町村稅(收入濟額)……………三六七  
 二七四 市町村稅滯納……………三六八  
 二七五 縣有財產……………三六八  
 二七六 市町村基本財產……………三六九  
 二七七 市町村普通財產……………三七〇  
 二七八 地方債……………三七一  
 二七九 縣官吏職員……………三七三  
 二八〇 市町村吏員……………三七五  
 二八一 受發文書……………三七六

附錄

一 郡市町村區劃……………一  
 二 警察管區……………八  
 三 裁判所及登記管區……………一〇  
 四 稅務署管區……………一二  
 五 營林署管區……………一三  
 六 專賣局管區……………一五  
 七 山嶽……………一六  
 八 原野……………一七  
 九 河川……………一八  
 一〇 瀑布……………一九  
 一一 池沼湖……………二一  
 一二 島嶼……………二三  
 一三 名勝及舊蹟……………二三

(目次)

雜錄

一四 日向の古墳……………三五  
 一五 神武天皇御東遷二千六百年記念顯彰聖蹟……………三七  
 一六 御陵墓傳説及參考地……………四四  
 一七 史蹟名勝天然紀念物……………四四

## 神都日向

### 【日向の誇り】

日向なる小戸の渡の浦こそは  
青人草の初めなりけれ

と古歌にもある通り古國日向は皇祖發祥の靈跡として知られ、日向人はこれを以て唯一の誇りとしてゐる。されば風物悠々流れ流れて三千歳、紀記之を傳へてより正に千二百有餘年、悠久なる先人の跡は遙かに積へ得べくもなく又漫りに臆測を許さないものもあるが、さもあれ、神話の國、傳説の國としての榮光は、古國日向に許さるべき永劫の誇りであらう。そこには到る處に先人の遺蹟があり、原人濶歩の跡がある。累々たる古墳、神話の山、それは本縣にさつては限りなく尊い不文の記録であり、先人に依つて殘されたる唯一の記念物でもある。しかしそこには涙ぐましい迄淡い傳説が幾つもなく織込まれてゐて、いやが上にも、これ等の遺蹟を聖化し淨化する。それは心なき旅人にすら、晩春の野道に麥笛を吹くにも似た、淡い哀愁を唆らすには置かないであらう。げに日向は傳説の國であり、神話の都である。

### 一、沿 革

一、上

古

革

自祖神國土經營  
至神武天皇御東遷

(總覽)

初め伊弉諾、伊弉册の二神あつこ取と麻島に降臨し尋で西巡して筑紫に到り日向のたはな橘のを小門の阿波岐原に宮居し皇子二十九神に分ち四海鎮綏の任に當らしめられた、事勝國勝長狹神しほつらのあきな（鹽土翁）は日向の神で筑紫を總管し、大山おほやま祇命は山野を司り其の女はな磐長姫、木花開耶姫と共に日向に居られた、後天孫瓊々杵尊、天照皇大神の命を承けて筑紫日向の櫛崎峰に降り給ふに及て夷族を殺撫し稼を教へ徳化四方に洽く都を吾田長屋笠あかたのながや狹之崎に尊め木花開耶姫を妃として三皇子を擧げ給ふた、彦火々出見尊又豐玉姫を妃として彦波瀲武鸕鷀草葺不合尊を儲けられ鸕鷀草葺不合尊繼で皇位に即位されて玉依姫を娶て四皇子を擧げられた、其の第四皇子は皇祖神武天皇である。天皇笠狭宮に止り給ふたこと四十五年で西陲の地天業恢弘の宏圖を遂げ難いのを察し給ひ皇子を率ひ宮崎を發し東征の途に就き給ふてから日向の名空しく西陲の地に埋み夷民の跳梁に委すこと久しかつた。

二、上 世

自景行天皇御西征  
至土持、三田井二氏

景行天皇の御代になつて熊襲叛して朝貢しなかつた。天皇乃ち親征の軍を進められて日向に入り、行宮を高屋に建て、駐ること六年にして賊悉く平定した。此間御刀姫を納れて妃とせられ、日向國造の祖豐國別皇子を生ませられた。曾て子湯縣に幸し丹波小野に遊覽せられ、東望して宣ふた「是の國は直ちに日の出づる方に向けり」と其の國を號して日向と云ふは宣べなり。又思邦歌を詠じ給うた。既にして高屋を出で、夷守ひら（小林）を過ぎて凱旋された、此地は天皇に關する遺蹟縣下に多くて兒湯郡都於郡村黑貫寺、南那珂郡吾

田村、西諸縣郡小林町等は其の一二である。

成務天皇五年國造くにさだ縣主の制を設けられて、景行天皇の皇子豐國別命、初めて日向國造に任ぜられ、其の子國富彦命、諸縣の國富莊くにのふのしやう（本庄）に居られ其の子を老男應神の朝に日向國造とせられた。老男の子牛諸井の長女髮長姫は實に仁徳天皇の妃である。

和銅六年四月、四郡を割て大隅を置き、薩摩は是より先大寶二年に其の名が見ゆる。

神龜元年土持氏十一世の孫直綱初めて日向に入り縣莊あき（延岡）に入り其の子孫國亂平定の功に依り縣新納財部諸縣の各地を賜り其の一族國內に充ちたが貞觀元年三河に移され、三田井氏は始め大神氏と云つて延暦中大神氏の遠裔太郎政次子孫世々高千穂三田井に居る、因つて地名を以て姓とするに至つたのである。

三、中 世

自鎌倉時代  
至織田時代

文治元年惟宗忠久を島津莊下同職に任じ翌年更に總地頭職に補せられ始めて島津氏を稱した。翌年九月薩隅、日三國の守護職に補せられ建久七年八月莊内島津莊に入つた後居を鹿兒島に移した。支族に七島津があつて勢力漸く盛なるものがあつた。伊東氏は建久元年四月工藤祐經の日向地頭に補せられたのに始り其の子孫は尙伊豆に留ること五代建武二年に至つて伊東祐持始めて日向に入り都於郡に居城を構へた、當時土持亦七族に岐れて各其の地を管し祐持入國後も尙其の領内を侵す有様であつた、適々南北朝の分立に際し此の地方亦二派に分れ紛争止まず其の最も甚しきは島津對伊東の争で互に勝敗あつて久し間解けなかつた。

（總覽）



降て伊東三位入道義祐が都於郡を本城として領内に四十八城主を配置し大に威を國內に張つたが天正五年十一月島津義久大舉して攻來り城遂に陥り走つて豊後大友氏に寄つた、大友宗麟翌六年三月大兵を率て日向に入り薩摩軍と兒湯郡高城に戦つたが大友軍再び敗れた、之を耳川戦と言ふ。此より島津氏益々勢を得伊東氏は復振はなくなつた。

天正十五年義久秀吉の命に服せなかつたが爲め秀吉大軍を向け義久降を乞ふに及んで伊東祐兵を飢肥、曾井、清武に高橋元種を縣(延岡)宮崎に秋月種實を高城、財部、福島に分封した。

#### 四、近世 各藩の由来

**延岡藩** 天正十五年高橋元種始めて此地に封せられ五萬石を領したが後事を以て没收さる、同十九年七月有馬直純肥前の島原から來て封に就いた、然れども孫永純の時馬氏亦越後糸魚川に移され、尋で三浦氏下野王生城より移封されしも久しからずして參州に移され以て内藤氏に至つた。内藤氏は磐城平城主から移封され七萬石を領した内藤政樹を以て藩祖とする、内藤氏移封されてから廢藩に至る迄二百餘年現子爵内藤政道の父政舉は最後の藩主である。

**高鍋藩** 藩主秋月氏は後漢光靈帝から出たと云はる、應神天皇の御代歸化し初め大藏の姓を賜つたが後裔種直建仁中築前秋月莊に居たので秋月を姓とし種實に至り豊臣秀吉から日向財部三萬石に封せられた、累世繼承して維新の際に至つたが現子爵秋月種英の父種樹は其の最後の藩主である。

**佐土原藩** 天正十五年島津貴久佐土原を畧し四男家久之に居り關ヶ原の役後以久改めて三萬石に封せられた

のに始まる、十世忠寛に至り戊辰の役に各地に轉戦して殊功があつた、賞典録三萬石を賜り明治三年藩廳を廣瀬に移した、島津忠寛は最後の藩主で嗣子忠亮伯爵を授けられ忠磨は當主である。

**飢肥藩** 豊臣秀吉伊東祐兵を飢肥に封じ關ヶ原の役後家康又改めて此地を領せしめ爾來相繼で祐相に至つた、かくて明治二年藩籍を奉還し其の子祐歸藩知事に任ぜられ以て廢藩置縣に及んだ子爵祐弘は當主である

**都城藩** 薩摩の支封である北郷忠純慶長五年都城に入り久純に至つて島津を冒した、爾來二十七代久寛に至り藩廢の命があつて都城縣を置き尋で宮崎縣に合せられた、當主は島津久厚である。

**菊池氏** 征西將軍懷良親玉菊池重武の女を納れ子義宗を擧げられた、菊池武運の子重爲義宗を擁して米良山中に通れ米良を姓として世々十五村を領し後人吉藩に屬した、明治初年菊池を改稱し廢藩の後は一且人吉縣に屬したが後美々津縣に合せられた。

#### 五、分縣の由来

明治四年七月廢藩置縣の命出で日向國は延岡、佐土原、高鍋、飢肥、鹿兒島、人吉及日田の七縣に分屬し尋で同年十一月十四日都城、美々津、八代三縣に分屬となつた、五年九月更に八代縣に屬する一部を美々津縣に合し六年一月都城、美々津の二縣を廢して宮崎縣を置く、同九年八月に至つて宮崎縣廢され鹿兒島縣に合せられたが宮崎縣再置の議縣民間に起り明治十六年五月太政官布告第十五號を以て宮崎縣再置の令に接し七月一日を以て開廳するに至つた。明治元年以來の管轄地沿革の表示及明治十六年置縣以來の長官氏名は左の如くである。



大正八年八月  
 大正十年六月  
 大正十一年十月  
 大正十二年十月  
 大正十四年九月  
 大正十五年九月  
 昭和二年五月  
 昭和三年一月  
 昭和四年七月  
 昭和五年八月  
 昭和六年十二月  
 昭和六年十二月  
 昭和八年六月  
 昭和十年一月  
 昭和十二年七月  
 昭和十四年八月

大正十年六月  
 大正十一年十月  
 大正十二年十月  
 大正十四年九月  
 大正十五年九月  
 昭和二年五月  
 昭和三年一月  
 昭和四年七月  
 昭和五年八月  
 昭和六年十二月  
 昭和六年十二月  
 昭和八年六月  
 昭和十年一月  
 昭和十二年七月  
 昭和十四年八月

現二二一一〇一一一  
 年年年 年年年 年年年  
 七八七 四一六八八 十  
 ケケケ ケケケケケ ケケケ  
 在年月月月 月月月月月月 年月年月月

長相三君木半有石山古加時齋大杉廣  
 谷川島島下井吉田岡田勢永藤芝山瀬  
 勝誠清義 國 清浦宗惣四直  
 透六也吉介清實馨利昌雄三宜吉郎幹



本縣の位置 本縣は九州の東南端に位し日向國一圓を管す。東經一三〇度四二分より一三一一度五三分に及び北緯三一度二分より三二度五〇分の間に位置す。北は大分縣に隣り、西は山岳連亘して熊本縣の境を劃し、西南は鹿兒島縣に接し、東北一帯は、太平洋に面して展開す。面積廣袤及行政區劃 本縣の總面積は五〇一方里七三にして全國中第十四位に在る廣大なる面積を有し、東西十七里餘、南北四十里に及び、分ちて宮崎、都城、延岡の三市、宮崎、南那珂、北諸縣、西諸縣、東諸縣、兒湯、東臼杵、西臼杵の八郡とし八十六ヶ町村に區劃す。

### 概 説



**縣の位置** 本縣は九州の東南端に位し日向國一圓を管す。東經一三〇度四二分より一三一一度五三分に及び北緯三一度二分より三二度五〇分の間に位置す。北は大分縣に隣り、西は山岳連亘して熊本縣の境を劃し、西南は鹿兒島縣に接し、東北一帯は、太平洋に面して展開す。

**面積廣袤及行政區劃** 本縣の總面積は五〇一方里七三にして全國中第十四位に在る廣大なる面積を有し、東西十七里餘、南北四十里に及び、分ちて宮崎、都城、延岡の三市、宮崎、南那珂、北諸縣、西諸縣、東諸縣、兒湯、東臼杵、西臼杵の八郡とし八十六ヶ町村に區劃す。

**地 勢** 國中二派の山脈あり、一は西北より起り祖母嶽、市房山等の高峰を連ねて南に走り、一は西南に崛起し韓國岳及霧島山の峻岳をなし蟠屈して海に入る。其の間十數條の河川皆東奔して海に注ぐ。就中五ヶ瀬川、美々津川、一ツ瀬川、大淀川は何れも流路二十里以上に渉り舟筏の便あり、海岸線の延長は七十七里に及び十餘の港灣其の間に點在す。即ち福島(南那珂郡)、外浦、目井津、油津、内海、折生浦、赤江、福島(宮崎郡)、福浦、美々津、細島、土々呂、延岡、古江、市振、宮野浦、島野浦等にしてその中細島は甲號、福島(南那珂郡)、油津、内海、土々呂、延岡の各港は乙號に共に内務省の指定港灣たり。地味は西北地方稍礫礫なれども概して肥沃最も農作に適す。

**地 質** 本縣地質の最大面積を占むるものは秩父古生層及中生層にして東臼杵、西臼杵兩郡は主として前者(位置及面積廣袤)

土

地

面積五百一万里

その中官有四割三分

縣ノ位置及面積廣表

縣	縣廳所在地	東經	北緯
極東	宮崎市別府町	一三二・六	三二・二
極西	東臼杵郡北浦村	一三二・五	三二・二
極南	西諸縣郡眞幸村	一三〇・四	三二・二
極北	南那珂郡都井村	一三〇・四	三二・二
面積	東臼杵郡北川村	一三〇・四	三二・二

東西 171.0 里町  
南北 40.0 里町

に屬し、兒湯郡の大部分及西諸縣、東諸縣兩郡の北部並に西諸縣、北諸縣の郡界に當れる山地は概ね後者に屬す。而して之に亞ぐものは西諸縣、北諸縣の大部分を占むる火山灰にして斑岩は東、西臼杵郡の北部及東臼杵、兒湯の郡界に分布せられ、南那珂郡の大部分及宮崎郡の南端は第三紀層にして兒湯郡、宮崎郡の沿岸は主に第四紀古層に屬し、宮崎郡、東諸縣郡の平坦部は第三紀層第四紀新層及古層互に錯綜して點在せり。又石灰岩は東臼杵郡の山間に於て僅に數條の帶狀を爲せるのみ。

土

地

面積五百一方里

その中官有四割三分

に屬し、兒湯郡の大部分及西諸縣、東諸縣兩郡の北部並に西諸縣、北諸縣の郡界に當れる山地は概  
 ね後者に屬す。而して之に亞ぐものは西諸縣、北諸縣の大部分を占むる火山灰にして斑岩は東、西  
 白杵郡の北部及東白杵、兒湯の郡界に分布せられ、南那珂郡の大部分及宮崎郡の南端は第三紀層に  
 して兒湯郡、宮崎郡の沿岸は主に第四紀古層に屬し、宮崎郡、東諸縣郡の平坦部は第三紀層第四紀  
 新層及古層互に錯綜して點在せり。又石灰岩は東白杵郡の山間に於て僅に數條の帶狀を爲せるのみ。

縣ノ位置及面積廣袤

縣	縣ノ位置	縣ノ面積	縣ノ廣袤
宮崎	東	一三二・三六	三二・五六
西諸縣	西	一三二・五五	三二・五六
東諸縣	東	一三〇・四三	三二・五六
南那珂	南	一三二・二二	三二・五六
東白杵	北	一三二・五〇	三二・五六
兒湯	北	一三二・五〇	三二・五六

面積 五〇一・七三 東西 一七・二〇 南北 二〇・〇〇

## 概 説

### 總面積

本縣の官民有地總面積は四四〇、一三五町二反歩にして内官有地は一九〇、〇一四町九段歩（四割三分）民有地二五〇、一二〇町三段歩（五割七分）なり。されど本表に掲げたる民有地は所謂第二義統計即ち土地臺帳を基準とせる調査なるを以て事實と甚しき懸隔あることを想はざるべからず。今試みに第一義的に調査したる結果を示せば耕地九四、一五七町六段歩、林野三九一、九〇一町八段歩なるを以て、之れに依り總面積五〇一万里七三（約七八〇、二四八町五段歩）に對する比例を觀るときは官有地二割三分、民有地中耕地一割二分、林野五割、其の他（宅地、墾田、池沼（有租地）牧場、雜種地）三分にして爾餘の一割一分が道路、河川等に相當す。

### 官有地

はその大部分即ち一七六、一七四町七段歩（九割三分）は山林にして、この外原野の三、五〇八町九段歩を除くの外は殆んど各省の用地なり。而してその主なるものは陸軍省用地の七、三八四町歩、鐵道省用地の五六四町一段歩及農林省用地の二四四町五段歩なり。而して各郡市に於ける分布状態は西諸縣郡の五三、一五二町一段歩（三割）を最も多きものとし、南那珂郡の三三、五九六町二段歩（一割九分）、兒湯郡の三三、一五五町五段歩（一割九分）之れに亞ぎ北諸縣郡の二六、六六六町六段歩（一割五分）、東諸縣郡の一四、九九二町七段歩（九分）の順位にして宮崎郡は一、二、七七八町二段歩、西臼杵郡は九、七二二町四段歩、東臼杵郡は五、四三一町七段

（土地）



歩、宮崎市は三一四町歩、延岡市は一四二町四段歩にして都城市は僅かに六三町一段歩に過ぎず。尚市町村の中官有地の最も多きは須木村の二二、五二九町三段歩にして北郷村(南那珂郡)の一三、〇四〇町一段歩、小林町の一〇、四九二町三段歩、木城村の九、二〇〇町二段歩之に相亞ぎ、其他五千町歩以上のものは山ノ口(七、一六五町七段歩)、都農(六、七一八町一段歩)、飯野(六、七〇七町九段歩)、三納(六、五三八町七段歩)、西嶽(六、一七八町三段歩)、田野(五、九五〇町六段歩)酒谷(五、六一四町九段歩)、高岡(五、〇四四町七段歩)の各町村にして最も多きは椎葉村の四段歩、又官有地の皆無なるは瓜生野、那珂、倉岡、木脇、本庄、都於郡、西米良、東米良、西郷、北郷(東臼杵郡)、北浦、岩井川の各町村なりとす。

民有地  
 (第二義統計に依るもの)は有租地二二七、九三八町八段歩(九割一分)、免租地八、〇八三町五段歩(四分)、年期地一四、〇九七町歩(五分)にしてその有租地の種目は田四六、〇〇一町一段歩(二割)畑六四、七〇八町二段歩(二割八分)、山林七二、三七六町三段歩(三割二分)、原野三七、六九三町三段歩(一割七分)、宅地六、九六八町六段歩(二分)、其の他一九二町三段歩の割合なり。

一 官民有地總面積

(官有地ハ昭和十四年三月三十一日現在ニシテ民有地ノ内官有租地ハ昭和十三年十二月末日、免租地及ビ年期地ハ昭和十四年一月一日現在トス)

郡市別	總數		民有地			年期地
	總數	官有地	有租地	免租地	年期地	
宮崎郡	四四〇、一三五・二	一九〇、〇一四・九	二五〇、一三〇・三	八、〇八三・五	一四、〇九七・〇	二、九七六・三
南郷郡	四三八、五八五・二	一九〇、二六七・八	二四八、三二七・四	六、六四九・〇	一三、八三五・八	三、四九三・三
那珂郡	四四八、〇二九・四	一八八、七四九・八	二五九、二七九・六	五、七六四・七	一三、三〇六・六	二、三〇六・六
北郷郡	三二、〇五一・三	一二、七八八・二	一八、二七三・一	一四、八三九・三	四、五七〇・五	二、九七六・三
西郷郡	六四、〇一六・八	三三、五九六・二	三〇、四二〇・六	二六、六九七・五	二、二九八・八	三、四九三・三
東郷郡	五八、六三二・九	二六、六六六・六	三二、九六六・三	二八、三三二・七	二、二四二・四	一、三九一・二
東郷郡	八一、六八〇・七	五三、一五二・一	二八、五二八・六	二七、二七九・九	五、〇〇〇・二	七、四八・五
兒島郡	二九、四四八・六	一四、九九二・七	一四、四五五・九	一二、八四八・五	三、一六七・二	一、二九〇・七
諸縣郡	六四、六二九・六	三三、一五五・五	三二、四〇五・四	三、八九〇・九	六、二九二・二	一、五三九・五
諸縣郡	四六、七四三・四	九、四三一・七	四一、三二一・七	三、八九〇・九	一、四六六・六	九、七五七・七
湯村郡	四四、四二一・五	九、七二二・四	三四、六九一・一	三、三三九・〇	一、三〇三・九	五、七二・二
白土市	四、八三六・二	三、一四〇・〇	四、五二二・二	三、六六九・九	一、四八五・八	二、〇四・二
岡崎市	八、八一六・二	一、四二二・四	八、六七三・八	七、二三二・六	六、一五二・二	八、二六・〇

(土地)

五

昭和十三年  
昭和十二年  
昭和十一年

町  
町  
町

社地 内務省 大藏省 陸軍省 司法省 遞信省 農林省 鐵道省 山林原野 其他  
 三六二・七七 一〇〇 一〇〇 二〇九 七〇〇 二四四・五 二四四・六 一七九・六八三・六  
 二六二・七七 一〇〇 一〇〇 二〇九 七〇〇 二四四・五 二四四・六 一八〇・六四六・七  
 二六二・七七 一〇〇 一〇〇 二〇九 七〇〇 二四四・五 二四四・六 一七九・八〇六・八

二 官有地

三 民有々租地

地積  
昭和十三年  
昭和十二年  
昭和十一年

町  
町  
町

田 畑 宅地 山林 原野 其他  
 四六、〇〇〇・一 六四、七〇八・二 六、九六八・六 七二、三七六・三 三七、六九三・三 一九二・三  
 四六、〇〇〇・一 六四、五七四・一 七、〇〇七・一 七二、二九〇・五 三七、七七三・三 一六八・一  
 四五、九二一・八 六四、六五五・八 七、〇〇七・一 七一、八二六・三 三七、七八〇・一 一三〇、〇一七・二

貸賃額  
昭和十三年  
昭和十二年  
昭和十一年

町  
町  
町

七、三五六、〇八四 二、五四〇、八七七 三、五八八、四一四 四五四、四七五 一〇四、五八四 一九〇、〇四九  
 一〇、八五三、八〇三 三、五九八、二八二 三、四八九、四八七 五九八、五二一 一三四、四六四 一三、八七四  
 一〇、七九三、七五九 三、六八一、七二〇 三、四九五、五九二 五九三、八四八 一三四、四五二 六九、一一六

四 民有免租地

昭和十三年  
昭和十二年  
昭和十一年

町  
町  
町

神社地 學校敷地 用器水路 溜池井溝 道路堤塘 保安林 官公署 病院敷地 其他  
 二四・二 六一四・九 七〇〇・二 七六九・三 三、五九六・一 一七・八 二、三四一・一  
 一八・五 五〇・三 六三三・一 四二四・一 二、九二三・九 一五・七 二、一〇六・四  
 一七・八 四九八・六 六一五・九 四二五・六 二、八七七・八 五・〇 一、二七八・〇

五 年期地

昭和十三年  
昭和十二年  
昭和十一年

町  
町  
町

荒地 開墾地 新開地 造林地 其他  
 地積 地積 地積 地積 地積  
 九六五・三 五二二・七 二、九八九 一、二九三・九 一一、二八三・三  
 七五一・八 五二二・七 二、九八九 一、五六八・八 一〇、九二九・三  
 九四五・八 六二九・九 四、八三二 九〇四・一 一〇、七六二・三

(土地)

氣

象

四季を通して氣候良し  
平均温度が十七度

## 概説

### 管内

#### 氣温

本縣は大體に於て氣候温和にして各地の氣温甚しき懸隔を見ずと雖、地形南北に長く、東は太平洋に面し暖流近く流るゝに反し、西は山岳重疊して標高一、〇〇〇米に達するもの亦尠からざるを以て自ら其の趣を異にするものあり、即ち本年中に於ける平均氣温の最も高きは星倉に於ける二二度八分にして之を前年と比較するときは零度一分の高温を示せり。而して日射旺盛なるときは内陸は晝間の温度海岸部より著しく高きに因り高温部は内陸に向つて北上するの傾向を呈す。即ち管内平均最高氣温は七月加久藤に於ける三二度五分にして海岸部より比較的高温を示せり。又低温部は西臼杵郡西北部にして三田井の二〇度一分なりとす。

而して縣内に於ける高極氣温は七月二十九日神門に於ける三七度八分にして低極氣温は十月三十日神門に於ける氷點下一〇度九分なりとす。

#### 降水量

縣内に於ける降水量の状況を見るに最も多量なりしは北河内觀測所に於ける三、四二八、一耗にして寒川觀測所の三、二八八耗六之に亞ぎ最も少量なりしは中組觀測所の一、八四七耗なりとす。

#### 宮崎市を中心としたる氣象

#### 氣温

本年中に於ける平均氣温は一六度九分にして平年より零度三分高く之を月別に見るときは七月の二

(氣象)

六度九分最も高く八月の二六度一分、六月の二三度七分に相亞ぎ最も低温なるは一月の六度三分なりとす。尙平均最高気温は二二度一分にして平年より零度四分低く之を前年に比するときは零度二分の低温を示せり。而して月別に於て最も高温なりしは七月の三一度にして八月の二九度八分九月の二八度二分に相亞ぎ最も低温なりしは一月の二度五分なり。尙年中に於て気温の最も高かりし日は七月二十二日の三四度八分にして最も低かりしは一月十日及二十七日の水點下五度六分なりとす。

降水量  
本年中に於ける降水總量は三、四八一耗にして平年に比し九三三耗四の増加を示し之を月別に見るときは八月の五五九耗最も多く七月の四〇九耗一、五月の四〇二耗一、十月の三八五耗七、六月の二三三耗六、四月の一三三耗三、二月の一一一耗一、三月の九四耗一、九月の八〇耗一、十二月の三三耗四、一月の三一耗三之に相亞ぎ最も少量なりしは十一月の八耗九なりとす。

六 宮崎氣象 昭和十三年

全	十	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一	
年	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	月	
(氣象)	七 六 一 ・ 三	七 六 一 ・ 七	七 六 五 ・ 四	七 五 八 ・ 七	七 五 七 ・ 三	七 五 六 ・ 〇	七 五 八 ・ 七	七 五 九 ・ 八	七 五 九 ・ 八	七 六 〇 ・ 四	七 六 三 ・ 一	七 六 七 ・ 八
平均	一 六 ・ 九	二 〇 ・ 二	二 〇 ・ 二	二 三 ・ 四	二 六 ・ 九	二 六 ・ 一	二 三 ・ 七	二 三 ・ 七	二 三 ・ 七	二 三 ・ 七	二 三 ・ 七	二 三 ・ 七
平均	七 ・ 五	七 ・ 〇	七 ・ 〇	七 ・ 七	八 ・ 〇	八 ・ 五	八 ・ 一	八 ・ 一	八 ・ 一	六 ・ 九	七 ・ 四	六 ・ 七
平均	五 ・ 七	三 ・ 〇	三 ・ 〇	四 ・ 五	五 ・ 九	六 ・ 九	五 ・ 八	五 ・ 九	五 ・ 九	七 ・ 五	八 ・ 三	六 ・ 三
平均	二 ・ 四	三 ・ 三	三 ・ 三	一 ・ 九	二 ・ 〇	二 ・ 〇	二 ・ 五	二 ・ 五	二 ・ 五	二 ・ 三	二 ・ 一	二 ・ 〇
平均	二 ・ 〇	一 ・ 六	一 ・ 七	一 ・ 九	一 ・ 五	一 ・ 二	一 ・ 五	一 ・ 二	一 ・ 二	二 ・ 〇	二 ・ 〇	二 ・ 〇
平均	六 ・ 九	一 ・ 三	一 ・ 三	六 ・ 三	六 ・ 三	六 ・ 三	二 ・ 三	二 ・ 三	二 ・ 三	五 ・ 九	五 ・ 九	七 ・ 七
平均	四 ・ 四	三 ・ 一	三 ・ 一	三 ・ 二	三 ・ 二	三 ・ 二	四 ・ 七	四 ・ 七	四 ・ 七	六 ・ 一	六 ・ 一	二 ・ 一
平均	一 ・ 三	一 ・ 一	一 ・ 一	八 ・ 三	八 ・ 三	八 ・ 三	一 ・ 六	一 ・ 六	一 ・ 六	一 ・ 五	一 ・ 五	一 ・ 五
平均	一 ・ 三	一 ・ 二	一 ・ 二	九 ・ 二	九 ・ 二	九 ・ 二	八 ・ 九	八 ・ 九	八 ・ 九	二 ・ 六	二 ・ 六	二 ・ 六

温度ハ總テ攝氏ノ度・氣壓・降水量ハ耗(三厘二毛) 濕度ハ百分率、雲量ハ十分率、天氣日數中晴曇ノ區別  
 ハ降水ノ有無ニ拘ハラズ平均雲量ニヨリ、快晴トハ雲量十分ノ二未滿、曇天トハ十分ノ二以上十分ノ八以下  
 ノモノヲ示ス、降水日數ハ一日ノ降水量零耗以上ニ及ビタルモノトス  
 ○温度 攝氏ヲ華氏ニ換算スルニハ攝氏ノ示度ニ一、八ヲ乘シ之ニ三十二度ヲ加フ即チ攝氏ノ十度ハ華氏ノ  
 五十度ナリ  
 ○氣壓 一耗ノ重力ハ一平方耗ニ付秤量三毛六二ナレバ七百六十耗ノ氣壓ハ二匆七分五厘ニ相當シ一平方尺  
 ハ約二百五十二貫トナル  
 ○雨量 一耗ノ降雨ハ一坪ニ付一升八合三勺ニ當ル故十耗ハ一段歩ニ五十五石トナル

七 縣内氣象 (氣温) 昭和十三年

六五四	三二一	星倉	宮崎	高岡	上江	延岡	都城	小林	神門	三田井	下福良	川南	本城
度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度	度
一五・九	一五・六	一五・八	一五・五	一四・五	一四・一	一三・五	一三・三	一三・五	一四・〇	一三・八	一三・二	一三・三	一五・八
二〇・七	二〇・七	二〇・八	二〇・四	二〇・二	二〇・二	二〇・三	二〇・三	一九・六	一九・六	一九・〇	一九・〇	一九・四	二〇・〇
二四・一	二四・〇	二三・九	二三・八	二三・〇	二三・〇	二三・六	二三・八	二三・八	二三・八	二二・六	二二・六	二三・四	二三・一
二七・七	二六・八	二六・九	二六・四	二五・七	二五・〇	二五・〇	二五・〇	二四・六	二四・二	二四・〇	二四・三	二四・五	二六・九
二七・二	二六・八	二六・七	二六・四	二五・七	二五・〇	二五・〇	二五・〇	二四・六	二四・二	二四・〇	二四・三	二四・五	二六・九
二七・七	二六・八	二六・九	二六・四	二五・七	二五・〇	二五・〇	二五・〇	二四・六	二四・二	二四・〇	二四・三	二四・五	二六・九

全	十	十	九	八	七
年	月	月	月	月	月
一七・五	一七・二	一七・二	一六・六	一六・六	一六・二
二〇・〇	二〇・五	二〇・六	二〇・二	二〇・六	一九・九
二三・三	二三・七	二三・五	二三・一	二三・五	二三・一
二六・七	二七・二	二七・五	二六・五	二六・〇	二六・一
二六・一	二六・三	二六・二	二五・九	二五・〇	二四・七
二七・〇	二七・五	二七・六	二七・一	二六・八	二六・三
二八・〇	二八・五	二八・六	二八・一	二七・八	二七・四
二九・〇	二九・五	二九・六	二九・一	二八・八	二八・四
三〇・〇	三〇・五	三〇・六	三〇・二	三〇・六	三〇・二
三一・〇	三一・五	三一・六	三一・一	三一・五	三一・一
三二・〇	三二・五	三二・六	三二・一	三二・五	三二・一
三三・〇	三三・五	三三・六	三三・一	三三・五	三三・一
三四・〇	三四・五	三四・六	三四・一	三四・五	三四・一
三五・〇	三五・五	三五・六	三五・一	三五・五	三五・一
三六・〇	三六・五	三六・六	三六・一	三六・五	三六・一
三七・〇	三七・五	三七・六	三七・一	三七・五	三七・一
三八・〇	三八・五	三八・六	三八・一	三八・五	三八・一
三九・〇	三九・五	三九・六	三九・一	三九・五	三九・一
四〇・〇	四〇・五	四〇・六	四〇・一	四〇・五	四〇・一
四一・〇	四一・五	四一・六	四一・一	四一・五	四一・一
四二・〇	四二・五	四二・六	四二・一	四二・五	四二・一
四三・〇	四三・五	四三・六	四三・一	四三・五	四三・一
四四・〇	四四・五	四四・六	四四・一	四四・五	四四・一
四五・〇	四五・五	四五・六	四五・一	四五・五	四五・一
四六・〇	四六・五	四六・六	四六・一	四六・五	四六・一
四七・〇	四七・五	四七・六	四七・一	四七・五	四七・一
四八・〇	四八・五	四八・六	四八・一	四八・五	四八・一
四九・〇	四九・五	四九・六	四九・一	四九・五	四九・一
五〇・〇	五〇・五	五〇・六	五〇・一	五〇・五	五〇・一

八 縣内氣象 (降水量) 昭和十三年

六五四	三二一	星倉	宮崎	高岡	上江	延岡	都城	小林	神門	三田井	下福良	川南	本城
耗	耗	耗	耗	耗	耗	耗	耗	耗	耗	耗	耗	耗	耗
一五・〇	一五・三	一五・六	一五・五	一四・九	一四・三	一四・〇	一三・八	一三・九	一四・六	一四・五	一四・七	一四・三	一五・三
二〇・一	二〇・四	二〇・七	二〇・六	二〇・〇	一九・四	一九・一	一九・〇	一九・二	一九・九	一九・八	一九・七	一九・九	二〇・九
二五・二	二五・五	二五・八	二五・七	二五・一	二四・五	二四・二	二四・一	二四・三	二五・〇	二四・九	二四・八	二五・〇	二六・〇
三〇・三	三〇・六	三〇・九	三〇・八	三〇・二	二九・六	二九・三	二九・二	二九・四	三〇・一	三〇・〇	二九・九	三〇・一	三一・一
三三・四	三三・七	三三・〇	三二・九	三三・三	三二・七	三二・四	三二・三	三二・五	三三・二	三三・一	三三・〇	三三・二	三四・二
三六・五	三六・八	三六・一	三六・〇	三五・四	三五・〇	三五・七	三五・六	三五・八	三六・五	三六・四	三六・三	三六・五	三七・五
三九・六	三九・九	三九・二	三九・一	三八・五	三八・一	三八・八	三八・七	三八・九	三九・六	三九・五	三九・四	三九・六	四〇・六
四二・七	四三・〇	四二・三	四二・二	四一・六	四一・二	四一・九	四一・八	四二・〇	四二・七	四二・六	四二・五	四二・七	四三・七
四五・八	四六・一	四五・四	四五・三	四五・七	四五・三	四五・〇	四五・〇	四五・二	四五・九	四五・八	四五・七	四五・九	四六・九
四八・九	四九・二	四八・五	四八・四	四七・八	四七・四	四七・一	四七・一	四七・三	四八・〇	四七・九	四七・八	四八・〇	四九・〇
五二・〇	五二・三	五一・六	五一・五	五〇・九	五〇・五	五〇・二	五〇・二	五〇・四	五一・一	五一・〇	五一・〇	五一・二	五二・二
五五・一	五五・四	五四・七	五四・六	五四・〇	五三・六	五三・三	五三・三	五三・五	五四・二	五四・一	五四・一	五四・三	五五・三
五八・二	五八・五	五七・八	五七・七	五七・一	五六・七	五六・四	五六・四	五六・六	五七・三	五七・二	五七・二	五七・四	五八・四
六一・三	六一・六	六一・〇	六一・〇	六〇・四	六〇・〇	五九・七	五九・七	六〇・〇	六〇・七	六〇・六	六〇・六	六〇・八	六一・八
六四・四	六四・七	六四・一	六四・〇	六三・四	六三・〇	六二・七	六二・七	六三・〇	六三・七	六三・六	六三・六	六三・八	六四・八
六七・五	六七・八	六七・二	六七・一	六六・五	六六・一	六五・八	六五・八	六六・一	六六・八	六六・七	六六・七	六六・九	六七・九
七〇・六	七一・〇	七〇・三	七〇・二	六九・六	六九・二	六八・九	六八・九	六九・二	七〇・〇	六九・九	六九・八	七〇・〇	七一・〇
七三・七	七四・一	七三・四	七三・三	七二・七	七二・三	七二・〇	七二・〇	七二・三	七三・〇	七二・九	七二・八	七三・〇	七四・〇
七六・八	七七・二	七六・五	七六・四	七五・八	七五・四	七五・一	七五・一	七五・四	七六・一	七六・〇	七六・〇	七六・二	七七・二
七九・九	八〇・三	七九・六	七九・五	七八・九	七八・五	七八・二	七八・二	七八・五	七九・二	七九・一	七九・一	七九・三	八〇・三
八三・〇	八三・四	八二・七	八二・六	八二・〇	八一・六	八一・三	八一・三	八一・六	八二・三	八二・二	八二・二	八二・四	八三・四
八六・一	八六・五	八五・八	八五・七	八五・一	八四・七	八四・四	八四・四	八四・七	八五・四	八五・三	八五・三	八五・五	八六・五
八九・二	八九・六	八九・〇	八九・〇	八八・四	八八・〇	八七・七	八七・七	八八・〇	八八・七	八八・六	八八・六	八八・八	八九・八
九二・三	九二・七	九一・六	九一・五	九一・〇	九〇・六	九〇・三	九〇・三	九〇・六	九一・三	九一・二	九一・二	九一・四	九二・四
九五・四	九五・八	九五・一	九五・〇	九四・四	九四・〇	九三・七	九三・七	九四・〇	九四・七	九四・六	九四・六	九四・八	九五・八
九八・五	九九・九	九九・二	九九・一	九八・五	九八・一	九七・八	九七・八	九八・一	九八・八	九八・七	九八・七	九八・九	九九・九
一〇一・六	一〇二・〇	一〇一・三	一〇一・三	一〇〇・七	一〇〇・三	一〇〇・〇	一〇〇・〇	一〇〇・三	一〇一・〇	一〇〇・九	一〇〇・九	一〇一・一	一〇二・一
一〇四・七	一〇五・一	一〇四・四	一〇四・三	一〇三・七	一〇三・三	一〇三・〇	一〇三・〇	一〇三・三	一〇四・〇	一〇三・九	一〇三・九	一〇四・一	一〇五・一
一〇七・八	一〇八・二	一〇七・五	一〇七・四	一〇六・八	一〇六・四	一〇六・一	一〇六・一	一〇六・四	一〇七・一	一〇七・〇	一〇七・〇	一〇七・二	一〇八・二
一一〇・九	一一一・三	一一〇・六	一一〇・五	一一〇・〇	一一〇・〇	一一〇・〇	一一〇・〇	一一〇・三	一一一・〇	一一〇・九	一一〇・九	一一一・一	一一二・一
一一四・〇	一一四・四	一一三・七	一一三・六	一一三・一	一一二・七	一一二・四	一一二・四	一一二・七	一一三・四	一一三・三	一一三・三	一一三・五	一一四・五
一一七・一	一一七・五	一一六・八	一一六・七	一一六・二	一一五・八	一一五・五	一一五・五	一一五・八	一一六・五	一一六・四	一一六・四	一一六・六	一一七・六
一二〇・二	一二〇・六	一二〇・〇	一二〇・〇	一一九・四	一一九・〇	一一八・七	一一八・七	一一九・〇	一二〇・七	一二〇・六	一二〇・六	一二〇・八	一二一・八
一二三・三	一二三・七	一二二・六	一二二・五	一二二・〇	一二一・六	一二一・三	一二一・三	一二一・六	一二二・三	一二二・二	一二二・二	一二二・四	一二三・四
一二六・四	一二六・八	一二五・七	一二五・六	一二五・一	一二四・七	一二四・四	一二四・四	一二四・七	一二五・四	一二五・三	一二五・三	一二五・五	一二六・五
一二九・五	一三〇・〇	一二八・九	一二八・八	一二八・三	一二七・九	一二七・六	一二七・六	一二七・九	一二八・六	一二八・五	一二八・五	一二八・七	一二九・七
一三二・六	一三三・〇	一三二・〇	一三二・〇	一三一・四	一三一・〇	一三〇・七	一三〇・七	一三一・〇	一三一・七	一三一・六	一三一・六	一三一・八	一三二・八
一三五・七	一三六・一	一三五・四	一三五・三	一三五・七	一三五・三	一三五・〇	一三五・〇	一三五・三	一三六・〇	一三五・九	一三五・九	一三六・一	一三七一・七

(氣象)

露光量違いの為重複撮影

戸

口

現住戸数十五萬五千  
人口八十七萬

全 十 十 九 八 七  
二 一  
年 月 月 月 月 月

星倉	宮崎	高岡	上江	延岡	都城	小林	神門	三田井	下福良	川南	本城
三三〇・六	二四〇・九	二二七・七	二六〇・三	二四〇・六	二二四・五	二一九・四	二七四・三	一九三・九	二八三・四	二六三・四	二九三・〇
三九・三	三三・〇	三六・五	二九・六	一三・二	四六・三	三五・六	二一・九	二八・八	四一・〇	二六・八	三九・三
五六〇・六	三八四・四	二六二・六	三二六・七	二〇八・〇	三九〇・五	二八二・三	二八三・二	二四二・一	二四七・五	二九〇・九	七二五・二
八・五	九・一	七・〇	六・二	三・〇	一〇・五	八・三	二・九	七・九	三・六	三・〇	一・二・七
五三一・一	五一八・〇	三五九・二	五四〇・五	五二五・一	三三七・九	二一六・二	六四八・六	二六〇・四	二五八・三	五三五・三	五五八・七
五三・五	八〇・一	九四・六	一六六・七	一四六・八	一三七・九	七四・四	一〇一・〇	八〇・七	七〇・〇	一六八・〇	五八・一
四三六・五	四五八・二	二八〇・四	三九六・七	四七四・六	三三八・〇	二八九・八	五〇三・三	四一三・八	三八一・八	四四五・四	三六八・五

露光量違いの為重複撮影

戸

口

現住戸數十五萬五千

人口八十七萬

全 十十十 九八七  
二一  
年 月月月 月月月

星倉	四三六・五	五三一・一	五六〇・六
宮崎	四八八・三	五八〇・〇	三八四・四
高岡	二八〇・四	三五九・二	二六二・六
上江	三九六・七	四四〇・五	三二六・七
延岡	四七四・六	五二五・一	二〇八・〇
都城	三三八・〇	三三七・九	三七〇・五
小林	二八九・八	二六六・二	二八二・三
神門	五〇三・三	六四八・六	二八三・二
三田井	四一三・八	二六〇・四	二四二・一
下野良	三八一・八	二五八・三	二七九
川南	四四五・四	五三五・三	二九〇・九
本城	三六八・五	五五八・七	七三五・二



## 概説ノ一 (國勢調査)

### 現在人口

昭和十年十月一日に執行せる國勢調査の結果に依る本縣人口の總數は八二四、四三一人にして之を從來の調査の結果と比較するときは先づ前回、即ち昭和五年に比し六三、九六四人(八分)、大正十四年に比し一三三、三三七人(二割六分)、大正九年の第一回國勢調査に比し一七三、三三四人(二割七分)の増加を示してゐる。

### 常住人口

昭和十年十月一日に執行せる國勢調査の結果に依る本縣常住人口の總數は八二三、五四五人(男四一五、〇七三人、女四〇八、四七二人)にして之を現在人口と對比するときは八八六人餘きを觀る。

### 結果の概要

昭和十年十月一日に執行せる國勢調査の結果による本縣三市八郡の總人口は前述の如く八二四、四三一人にして、全國總人口六九、二五四、一四八人の一、一九%に該り府縣中第三十三位を占む。之を既往に就き

(戸口)

見るに大正九年は一、一六%第四十一位、大正十四年は一、一六%第三十八位、昭和五年は一、一八%第三十五位にして本縣人口の全國總人口に對する割合は大正九年及大正十四年は同率なるも昭和五年には稍増加し昭和十年に至りては更に増加を示した。尙之れを從來の調査に比較するときは先づ前回昭和五年に比し六三、九六四人(八分)、大正十四年に比し一三三、三三七人(一割六分)、大正九年の第一回に比し一七三、三三四人(二割七分)の増加である。

人口の縣内分布を見るに六四、七二六人(七、九%)は宮崎市に三六、五七五人(四、四%)は都城市に五六、四二二人(六、八%)は延岡市に其の他は郡部に在るを以て市部の人口の占むる割合は一、九%に當つて居る。而して郡市中人口の最も多きは東臼杵郡の一、一七、六六四人(一、四、二%)にして北諸縣郡の一〇八、七〇九人(一、三、二%)、兒湯郡の九六、四五〇人(一、一、七%)、南那珂郡の九〇、五五二人(一、一、〇%)之に相亞ぎ、西諸縣郡の八二、〇五九人(一、〇、〇%)、宮崎郡の六七、五七七人(八、二%)、宮崎市の六四、七二六人(七、九%)、西臼杵郡の六二、六八九人(七、六%)、延岡市の五六、四二一人(六、八%)、東諸縣郡の四一、〇〇九人(五、〇%)の順位にして都城市の三六、五七五人(四、九%)が最も少ない。

### 九 國勢調査人口

總數	昭和十年		昭和五年		大正十四年		大正九年	
	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口	世帯	人口
宮崎	一五八、四三五	八二四、四三一	一四六、六三〇	七六〇、四六七	一三八、六五三	六九一、〇九四	一三三、三二一	六五一、〇九七
南那珂	一三、七五一	六七、五七七	一三、四六九	六五、七二四	一三、〇〇四	六〇、五八五	一二、九四〇	五九、九〇九
北那珂	一七、二六二	九〇、五五二	一六、二九五	八五、三五八	一五、六六七	七九、四九六	一五、四一四	七六、七〇四
諸縣	一九、一一六	一〇八、七〇九	一八、三三〇	一〇四、三七八	一七、三七九	九七、五九四	一六、三三九	九〇、三四九
東諸縣	一六、〇三三	八二、〇五九	一五、二〇七	七八、五六四	一四、三九四	七二、四二八	一四、〇四〇	六七、九三五
東臼杵	一八、六五三	四一、〇〇九	一九、〇四八	四二、二四四	一八、四九二	三六、八七三	一八、六九八	三七、〇九七
湯島	一九、七〇六	九六、四五〇	一九、一八七	九五、一四四	一九、二六〇	九〇、三四四	一八、四八九	八五、七六五
白杵	三三、五九五	一一七、六六四	三〇、七五〇	一〇七、七六五	三〇、〇五一	一〇〇、五一八	一九、九三二	九八、六八一
宮崎	一一、二二四	六二、六八九	九、八四一	五五、九六〇	九、五一八	五二、三八八	九、二三三	五〇、七四九
東宮崎	一一、九二五	四四、七二六	一一、五二五	五八、九二一	九、五九〇	四六、七八七	七、九三三	三八、一一一
延岡	七、二〇一	三六、五七五	六、九九三	三五、五二二	六、二九三	三〇、四二一	五、三三八	二五、七四一
宮崎	一〇、〇八九	五六、四三一	五、九九五	三〇、八九七	五、〇〇五	二四、六六〇	三、九七五	二〇、一四六

(月口)

10 配偶關係別人口

(昭和十年國勢調査)

延岡市	宮崎市	西宮市	東白旗郡	東諸縣郡	北諸縣郡	南諸縣郡	宮崎縣	總數	未婚		有配偶		死別		離別	
									男	女	男	女	男	女	男	女
17,219	11,094	18,476	18,572	34,034	26,623	11,238	1,238	238,830	209,178	158,658	158,017	13,663	35,611	4,931	5,543	
17,219	11,094	18,476	18,572	34,034	26,623	11,238	1,238	238,830	209,178	158,658	158,017	13,663	35,611	4,931	5,543	

二 現在人口及常住人口

(昭和十年國勢調査)

延岡市	宮崎市	西宮市	東白旗郡	東諸縣郡	北諸縣郡	南諸縣郡	宮崎縣	總數	現在人口		常住人口		總數	現在人口ニ對シ常住人口ノ超過(△印ハ減)
									男	女	男	女		
56,421	36,575	64,726	127,664	196,450	108,709	90,552	67,577	824,431	416,082	408,349	824,431	△1,009	133	
56,421	36,575	64,726	127,664	196,450	108,709	90,552	67,577	824,431	416,082	408,349	824,431	△1,009	133	

三 職業(大分類)別人口 (昭和五年國勢調査)

職業	宮崎縣		宮崎市		都城市		郡部		
	男	女	男	女	男	女	男	女	
總數	七六〇,四六七	三八三,一八八	三七七,三三九	二七,〇五五	二七,五四五	一七,二〇〇	一八,三二二	三三八,八七三	三三一,四八二
農業	二三三,七一九	一三六,六五六	一〇五,〇六三	二,七九九	二,〇二二	一,六九一	一,〇一八	一三四,一八八	一〇二,〇三三
水産	六,〇四五	五,九八二	六三	一四〇	一	一六	三	五,九四五	六二
工業	一,一八七	一,〇四七	一四〇	一三	一	一六	三	一,〇一九	一三七
交通	四六,四三七	三五,三三四	一一,一〇三	四,七一九	二,六四六	三,〇二六	一,八三九	二七,五八九	六,六一八
公務	三六,五八四	二一,七〇七	一四,八七七	三,八九四	二,一〇九	二,六三〇	一,一六三	一五,一八三	一,六〇五
自由業者	九,〇七一	八,五七八	四九三	八九一	七三	五三六	三九	七,一五一	三八一
其他有業者	一六,五二六	一三,七四二	二,七七四	二,二五一	四九二	九二八	二二八	一〇,五六三	二,〇六四
無業者	八,七九一	一,五八六	七,二〇五	一八九	八七一	一五九	六二八	一,三三八	五,七二六

三 出生地別人口ノ一 (昭和五年國勢調査)

出生地	自市町村生		縣内他市町村生		他府縣生		内地外生	
	男	女	男	女	男	女	男	女
總數	二八一,七六四	二六六,〇六七	五〇,一〇〇	六九,〇八六	四八,〇四七	四〇,八一九	三,二二七	一,三六七
宮崎縣	二六,五九六	二四,一七四	五,〇一二	七,七八三	三,三一六	三,〇一四	九六	五四
那珂郡	三四,四三三	三二,七九六	五,四七二	七,六五六	二,八〇〇	二,〇一八	一〇二	八一
南郷郡	四四,三三一	三九,三〇五	五,二二七	八,九三九	三,一〇三	三,二三六	一六七	八〇
北郷郡	二九,七〇四	二八,四九〇	三,四八三	四,六五九	六,三四六	五,六〇五	一八五	九二
東諸郡	一五,四一八	一四,二二七	二,八八九	四,二二〇	二,四九六	一,七八三	九二六	二八五
東湯郡	三二,六一五	三一,一〇三	七,二九〇	一〇,〇八二	七,四四三	六,一一〇	三三〇	一五一
白杵郡	五五,〇四六	五三,四三七	七,六一三	九,三二三	七,〇四七	五,二二〇	七三七	二四九
西白杵郡	二二,九〇六	二二,五〇九	二,七四〇	二,九八二	二,八一四	一,七三二	一九〇	四七
宮崎市	一〇,六一四	一〇,一九二	二,七六四	三,九八四	八,三三七	七,一五六	三四〇	二二三
都城市	一〇,一〇一	九,八三四	二,六二〇	三,四六八	四,三四五	四,八九五	一三四	一一五

(戸口)





宮崎市	四、〇〇〇	一三、二六六	三、三〇五	六六、二〇八	二六	一六、五五二	五、〇〇〇
延岡市	四、七四〇	一三、一六六	二、五五六	六五、九三五		一三、九一〇	五、四〇〇
都城市	一、二九	一五、八六八	一、四〇五	八八、三二七		七、八二三	五、五七

蓋し上述の如く人口密度と一月平均人口の關係は全国的に觀るも等しく同様の現象を示してゐるが之れ即ちその地方の社會狀態及經濟事情等の然らしむる所であり、宮崎市、都城市等に於て人口稠密なるに一月當りの人口僅少なるは人口の都會集中經濟組織の變遷に伴ふ小家族制度の反映と見ることが出來、之に反し西臼杵郡其他山間部地方に於て人口稀疎なるに一月當り人口の多數なるが如きは如實に其の邊の關係を物語つて居る。

**男女の權衡** 現住人口に就き男女の權衡を見るに男四三三、四四一人に對し女四三五、七六四人なるを以て女の男を超過すること六、六三一人に及び割合は女一〇〇人に付男九九、四七三となる。尙郡市に就き之が狀況を見るに大體に於て權衡を保てるも西臼杵郡の一〇七・二六、東臼杵郡の一〇二・八五兒湯郡の一〇一・三七、北諸縣郡の一〇〇・八一、宮崎郡の一〇〇・〇四等の如く其の割合は何れも女子の數男子を超過し、就中西臼杵郡の如きは其の割合甚しきを觀る。

既往十箇年間に於ける本縣人口増加の狀況を觀ると次表の如く逐年著しき増加を示して居る。

年次	本籍人口	現住人口		増加實數		増加率(千二付)	
		男	女	本籍人口	現住人口	本籍人口	現住人口

昭和三年十月一日	八八二、六九九	八六九、二〇五	四三三、四四一	四三五、七六四	一九、九六八	八、六一三	二二、一五	一〇〇・一
昭和二年十月一日	八六二、七三一	八六〇、五九二	四三一、六五五	四二八、九三七	一九、五八四	九、〇八〇	一七、二〇	一〇〇・六
昭和元年十月一日	八四八、一四七	八四九、五〇六	四二六、七七八	四三三、七二八	五、五六六	三、三三七	六、六一	三、九三
昭和九年十月一日	八四三、五八一	八四八、一七五	四三七、一一三	四三二、〇六二	一一、〇七三	四、一六〇	一三、三三	四、九三
昭和十年十月一日	八三一、五〇八	八四四、〇一五	四二五、三六四	四一八、六五一	一一、三七七	二、一〇二	一六、三五	一四、五五
昭和八年十月一日	八一八、一三一	八三一、九一三	四一八、四四八	四一三、四六五	一四、七七三	一四、五七二	一八、三九	一七、八三
昭和七年十月一日	八〇三、三五八	八一七、三四一	四一一、三三八	四〇六、一一三	一三、六二〇	一四、七〇五	一七、二五	一八、三三
昭和六年十月一日	七八九、七三八	八〇二、六三六	四〇三、七三四	三九八、九二二	一五、〇四四	一八、二五六	一九、四二	二二、二七
昭和五年十月一日	七七四、六九四	七八四、三八〇	三九四、五八二	三八九、七九八	一一、七七四	二二、七三四	一五、四三	一六、四九
昭和四年十月一日	七六二、九二〇	七七二、六五六	三八七、八〇五	三八三、八五一	一三、六三三	一四、六二七	一八、一九	一九、三三

**動態現象** 現在人に對する人口動態は死産に關するものを除く外、内閣統計局の調査に屬し未だ昭和十三年の事實を知り得ざるを以て茲に本縣に於て調査したる本籍人口の動態に付き其の概説を試みんす。但し死亡に就てはその最も重要な死因等を知るの必要あるに付参考のため内閣統計局調査にかゝる昭和十二年の事實に據ることとした。

**婚姻** 昭和十三年中に於ける婚姻總數は七、三八三件にして前年に比し實に九四八件の減少を示した。而して其の種類別は普通婚姻七、〇一六件、入夫婚姻一六一件、婿養子婚姻二〇六件にして婚姻百中普通婚姻九五、入夫婚姻二、婿養子婚姻三の割合となり人口千に對する婚姻率は八・三六に當り前(月口)

離婚

年に比し一・三〇の低率を示した。更に婚姻者の年齢を見るに先づ男に在りては二五歳以上三〇歳未滿の者最も多く總數の四割四分を占め、三〇歳以上三五歳未滿二割一分、二〇歳以上二五歳未滿一割二分に亞ぎ、即ち男子婚姻の大部分は上記の年齢に於て行はれ爾餘の二割三分は三五歳以上及二〇歳未滿の者の婚姻に屬す。次に女に在りては二〇歳以上二五歳未滿の者最も多く總數の四割五分を占め二五歳以上三〇歳未滿の者の二割八分之に亞ぎ、殘餘の二割七分は一九歳以下及三〇歳以上の者の婚姻に屬す。就て之を全國平均の事實に就き見ると大體本縣と同様の現象にして男の最も多きは二五歳以上三〇歳未滿の者にして之に亞ぐば二〇歳以上二五歳未滿の者とし、女に在りては二〇歳以上二五歳未滿の者最も多數を占め二五歳以上三〇歳未滿の者之に亞ぐ。即ち本縣婚姻年齢の第一階級にある男の二五歳以上三〇歳未滿の者、女の二〇歳以上二五歳未滿の者は共に全國平均年齢と同一の状態にあるも第二階級に屬する男三〇歳以上三五歳未滿、女の第三階級に屬する三〇歳以上三五歳未滿の者は共に全國平均年齢に比しその率高く即ち晩婚の傾向顯著なるを觀る。尙既往十箇年間に於ける婚姻率を見るに、年に於て消長あるは云へ概して逐年低下の傾向ありたるも、昭和十年よりは向上の一途を辿つてゐる。

出生

昭和十三年中に於ける出生數は二八、〇二八人(男一四、四五五人、女一三、五七三人)にして前年に比し三、四六四人(男一、六三五人、女一、八二九人)の減少を示し、人口一、〇〇〇に對する出生率は三一・七五に當り前年に比し四・七五の低率を示した。而して其の身分別は各性出生百中男は嫡出子九一・四〇、庶子四・九七、私生子三・六三に當り女子は嫡出子九一・〇八、庶子五・〇二、私生子三・九〇の割合にして之を既往に比較せば嫡出子は男女共に逐年増加し庶子及私生子の割合は漸減の趨勢にあり。尙出生を季節的に見れば三月の(三、四九九人)最も多く、之に亞ぐば一月の(三、〇八六八)、二月の(三、〇一九九)、十二月の(二、五二五人)、四月(二、五二三人)、十一月(二、三〇八八)、十月(一、九九六八)、五月(一、九六二八)、九月(一、八九一人)、八月(一、八三三人)、七月(一、七九三人)、六月(一、五九三人)の順位となる。之を要するに本縣の出生状態は一月より二月に減じ三月に至り増加し四月以後漸減し六月に至りては最低の出生數を示し七月より再び増加する傾向にあり。郡市中出生率の最も高きは西諸縣郡の三八・五二にして西臼杵郡の三三・四九、北諸縣郡の三三・三五之に亞ぎ、最も低率なるは宮崎市の二四・三三である。

死産

昭和十三年中に於ける死産數は一、一四〇件にして前年に比し一五五件を減少し、人口一、〇〇〇に對する割合は一・二九に當る。而して其の身分別は各性死産一、〇〇〇中男は嫡出子七六七・九五、庶子七五・一二、私生子一五六・九三に當り、女は嫡出子七五四・一六、庶子七二・〇九、私生子一七三・七五の割合にして私生子の死産率割合に高きは注目すべき現象なるも、之を既往十箇年に就き見るときは逐年低下の傾向を辿りつゝあり。尙之が體性別は女一〇〇に付男一一〇・七二(戸口)



死亡

にして出生児の割合に比し男児遙かに多きも、この現象は漸次出生児の割合に近づきつゝあることが窺はる。更に懷孕月数により各月の死産を見るに四箇月迄のものは僅かに八件にして月数を重ぬるに従ひ漸次死産数を増し即ち五箇月三二人、六箇月七五人、七箇月一七七人、八箇月一九〇人、九箇月一八五人、十箇月四七三人となる。

昭和十三年中に於ける本籍人死亡者の總數は一五、九四三人(男八、六六五人、女七、二七八人)にして前年に比し九九五人(男八二二人、女一七四人)を増加し一日平均死亡人員は四六八強に當り男女の比は女一〇〇に付男一一九・〇六となる。尙人口一、〇〇〇に對する死亡率は一八、〇六(男一・四九、女一六・六二)にして全國內地の一四・九(尤も昭和十二年の事實なるも)に比較すれば大體同様の率なることが窺はれる。死亡數は人口の増加に伴ひ逐次増加するは自然の現象なるも、死亡率は必ずしも實數を平衡しない。即ち今既往に於ける死亡の率を見るに十年前たる昭和四年は一八・五人にして翌昭和五年は一六・九人、昭和六年は一七・七人に昇り本年は一八・一となつてゐる。

一五 戸數及人口

昭 和 十 三 年	昭 和 十 二 年	昭 和 十 一 年	本籍人口	現住戸數	現住人口		現住人口 千二付	現住人口 增加歩合	一平 均
					男	女			
宮崎	八二、五九七	一二、七九八	七〇、一八三	三五、〇九九	三五、〇八四	一〇〇・〇四	五・六九	二、五七五	
南	一〇九、四八四	一六、八八三	九五、二四八	四七、四三八	四七、八一〇	九九・三二	五・一六	一、七六一	
北	一〇七、三八二	一四、六五四	八九、五三三	四四、九四八	四四、五八五	一〇〇・八一	五・〇二	二、〇〇四	
那	八五、二二七	一五、四一三	八四、五六三	四二、一八七	四二、三七六	九九・五五	八・八三	一、三九二	
諸	四九、二一〇	七、八九一	四二、〇一四	二〇、八八一	二一、一三三	九八・八一	一・二〇四	一、六八七	
東	一〇六、五〇九	一八、四五〇	一〇〇、〇〇二	五〇、三四〇	四九、六六二	一〇一・三七	一・〇一八	一、三二八	
兒	一一三、五三六	一七、六一二	一〇一、七六九	五一、六〇〇	五〇、一六九	一〇二・八五	一・四一六	九、九二	
西	四四、八八〇	一〇、三三〇	六五、四三三	三三、八五八	三一、五六五	一〇七・二六	一・三三八	七、一四	
宮	四六、九四〇	一三、二三六	六六、二〇八	三一、五八〇	三四、六二八	九一・二〇	一・四五三	一、六五五	
延	五九、四〇八	一三、一一六	六五、九三五	三二、六一八	三三、三二七	九七・九〇	一・四〇一	一、三九一	
岡	五八、五三六	一五、八六八	八八、三二七	四二、八九二	四五、四三五	九四・四〇	四・三二九	七、八二三	

(一)印ハ減ヲ示ス  
(月口)





二〇 本籍人動態ノ二 (出生及死亡)

郡市別	出生		死亡		自然増加 (出生死 亡差増)
	男	女	男	女	
昭和三十二年	14,455	13,573	8,665	7,278	12,085
昭和三十一年	16,090	15,402	7,844	7,104	16,544
昭和三十年	14,694	14,137	7,522	7,054	14,234
宮崎縣	1,374	1,268	833	714	1,095
那珂縣	1,813	1,630	1,098	855	1,480
諸縣	1,786	1,795	897	804	1,480
東諸縣	1,742	1,541	863	667	1,753
兒湯縣	838	782	516	400	1,364
東湯縣	1,645	1,555	1,021	840	1,338
白杵郡	1,806	1,681	1,142	930	1,315
西杵郡	1,053	1,120	725	634	814
東杵郡	584	558	495	386	261
宮崎市	968	868	508	467	861
延岡市	846	785	576	521	534

二一 現在人動態

昭和三十二年	昭和三十一年	昭和三十年	婚姻		離婚		出生		總數
			組數	千人付口	組數	千人付口	總數	男	
7,096	8,132	7,096	2,512	2,913	1,172	1,279	1,279	1,279	29,132
8,132	9,566	8,132	2,913	3,466	1,993	2,179	2,179	2,179	34,666
6,432	7,766	6,432	2,172	2,766	1,466	1,579	1,579	1,579	27,766
總數	11,400	11,400	7,766	7,766	5,144	5,144	5,144	5,144	27,766
男	5,999	6,922	3,558	3,558	2,913	2,913	2,913	2,913	16,661
女	5,401	6,077	4,208	4,208	2,231	2,261	2,261	2,261	16,661
不詳	11	11	11	11	11	11	11	11	11
千人付口	11,400	11,400	7,766	7,766	5,144	5,144	5,144	5,144	27,766

(月口)

本表ハ死産ヲ除ク外ハ内閣統計局ノ調査ニ係ルモノヲ抄録セリ

生 産 額

總額一億九千七百萬(圓)  
戸當り一千三百圓

## 概 説

生産額の多寡は其の地方の産業の状態を語り、之が經濟界に及ぼす影響は尠からぬものがある。従つてこの生産額統計は貴重な資料として廣く利用せられてゐる。

### 一、總 額

本年の本縣生産額は一億九千六百九十五萬八千七百七十七圓にして實に置縣以來の最高額である。之れを種類別に觀るときは

農 産	五七、八四五、七八九圓 (二九%)
蠶 業	一五、〇一五、七五六圓 (八%)
畜 産	五、七九九、九三三圓 (三%)
林 産	三〇、一二二、五五四圓 (一五%)
水 産	一〇、二三一、〇八〇圓 (五%)
工 産	七〇、九〇五、七七七圓 (三六%)
礦 産	七、〇三七、二八八圓 (四%)

さなり之れに依つて本縣産業の分野の梗概を窺ふことが出来る。  
(生産額)

二、前年との比較

之を前年と比較して見れば

總額	一二、一三〇、八六〇圓（六分六厘）増
農産	五、二四二、九四四圓（一割）増
蠶業	四〇三、二二二圓（二分六厘）減
畜産	一、二六三、五三〇圓（二割七分九厘）増
林産	三、九五〇、六九〇圓（一割五分一厘）増
水産	一、四六四、七八二圓（一割六分七厘）増
工業	八四二、四三一圓（一分二厘）減
鑛産	一、四五四、五五七圓（二割六分一厘）増

以上の如く蠶業、工業を除く外何れの産業も増加したるは支那事變に伴ふ各種事業の活況と勤勞倍加に依る生産數量の増加と一面又物價の高騰せし關係に因る。

今其の種類別に増減の著しきものを拾つてみると、増加したるものとしては【農産】に於て米の三、〇〇一、四七〇圓（九分七厘）、生大根の四三五、三〇〇圓（四割一分五厘）、苧麻の二二九、二九二圓（一〇割八分七厘）、葉煙草の一六四、三九二圓（二割三分一厘）、甘藷切干の五一二、三一二圓（四七割三分）、切干大根の三七五、八八三圓（四割一分六厘）、漬物の二二一、七九二圓（二割五分九厘）にして【蠶業】に於ては蠶絲類

の一八七、二一八圓（二分四厘）、【畜産】に於ては産馬の二〇八、四七五圓（二割一分八厘）、産牛の三〇六、九四二圓（四割九厘）、産豚の一五〇、四二二圓（八割六分三厘）、屠牛の一〇二、五六〇圓（三割三厘）、屠豚の一二七、二九七圓（一〇割六分九厘）、鶏の一七、六四八圓（二割三分八厘）、鶏卵の二一三、一六六圓（一割六分八厘）、【林産】に於ては丸及角材の八九二、六七三圓（九分）、挽材の一、七九八、〇六七圓（三割二分九厘）、薪の一七〇、〇八三圓（六分四厘）、木炭の八二九、二二四圓（一割九分七厘）、柴草の二二〇、四三四圓（一割一厘）、【水産】に於ては魚類の一、七四六、五二六圓（六割六分八厘）、【工業】に於ては煉瓦の一〇八、〇〇九圓（四割二分一厘）、菓子の一三八、五九五圓（一割三分）、木製品の一六九、九九七圓（一割二分三厘）、肥料の三八二、四五七圓（四割五分二厘）、酒類の三六七、一九六圓（一割九厘）、澱粉の六五四、八九〇圓（七割九分八厘）、製茶の一〇八、二〇一圓（一割一分）、菓製品の一五二、三九六圓（二割九分三厘）電力の六八五、二二六圓（一割二分六厘）、【鑛産】に於ては石材の三八九、七三八圓（四割九分八厘）等に於て何れも十萬圓以上の増産を示し、減少せるものとしては【農産】に於ては麥の四六二、九三三圓（一割）、【蠶業】に於ては繭の六〇四、八〇七圓（九分九厘）、【林産】に於ては椎茸の一〇九、五八三圓（一割三分）、【水産】に於ては遠洋漁業の三三二、二九六圓（八分二厘）、【工業】に於ては氷の一四、一九四（三割九分）等を其の主なるものとす。

三、既往十ヶ年間の趨勢

昭和四年を百として指數を以て既往十ヶ年間に於ける趨勢を種類別に觀れば

(生産額)

**農産** に於ては翌五年より物價下落の波に乗り米、麥を始め一般農産物の著しき低下を來たし七二に減じ六年は加へて米作不況の爲更に六一に下り七年には稍恢復して六八となり八年には八八、更に九年には一〇七となりて基準線を突破し以降漸次上昇して十年には一一九、翌十一年には一四四、十二年には一五九となり本年は一七〇となりて最近十ヶ年間に於ける最高の指數を示すに至つた。

**蠶絲業** は常に經濟界の支配下に置かれる關係上その影響を蒙ること頗る微妙且つ甚大なるものある爲昭和四年まで順調なりし指數は翌五年には經濟界の恐慌に因り五五に轉落し更に六年には四一に降下し續いて七年は四一と最下線を往復しつゝありしも八年には稍好轉して五四を示したるも翌九年には再び逆轉して四二となつた、然るに十年に至り絲價の上騰を見斯業の甦生は勢ひ五三に盛返し十一年も五三、十二年に五四と漸次上昇しつゝありしも本年は稍低下して五二となり未だに基準線を隔る事大にして落莫たる最下線を往復してある。

**畜産** 亦經濟界の不況に影響し翌五年に八三に轉落、六年には六九、七年には六三と螺旋降下を示したるも八年には漸く恢復の兆現れ六七に、九年には七九に復し十年に八六、十一年に九三と漸次上昇して遂に十二年には一一二となり基準線を突破し本年亦一四三となりて最近十ヶ年間に於ける最高の指數を示すに至つた。

**林産** は翌五年の八二より更に七四と低落一時前途を憂へられたるも七年より稍上昇の氣配をみせて七七を示し翌八年には九七と愈好轉し九年には遂に一〇九となりて基準線を突破し十年には一一三、更に十一年には一四九と昂騰して十二年には二〇四の驚異的指數を示し本年の指數は實に二三四の最高指數となり林業

王國たる日向の面影を如實に示した、蓋し斯業は近年交通機關の整備と相俟つて愈々向上の氣運に惠まれ本縣斯業の前途は實に囑望大なるものがある。

**水産** は翌五年には八七より六年には七九と低落したが七年には八一、八年には九〇と逐次増加して本年は一六二に昂騰した。

**工産** 躍進途上にある本業は翌五年には八七に低下せしも六年の九一以降は昂騰の一途を辿り本年は前年の四二四に比し幾分降下せしも尙且基準年に比し實に四倍餘の四一九を示してある。

如上は近年特殊化學工業の進出に因るものにしてその生産は年々擴大せられ本年も前年に引續き總生産額中の筆頭指數を保持してある。

**鑛産** は翌五年の八五より六年は八〇と低落し七年には一一七に上り以後漸騰して十二年には四二四に昂騰したるも本年は稍低下して四一七となり工業と同様昭和四年に比し四倍以上の最高指數を示してある。

如上の指數によつて本縣生産額の消長を通觀すれば昭和四年まで幾分不況なりし經濟界は翌五年より急激にその度を加へ指數は七二に急轉し六年に至りては更に深刻化して最近十ヶ年間の最低指數を示したが七年には幾分向上の緒につきて六八に向上八年には八八、九年には一〇七と累増した、此處に於て始めて各種産業界は然眉を開くに至り以降好調なりし産業經濟は十年に一一九、十一年には一四四、十二年に一五九なる足跡を示して本年は蠶業工産を除く外總べて前年に比し激増し總指數は一七〇に上騰して最近十ヶ年間に於ける最高指數を示すに至つた。

(生産額)



四、各郡市別生産額の概況

郡市別に觀れば先づ化學工業の都市延岡市の五五、三八二、三九三圓が首位にて壓倒的地位を占め實に總體の二割八分に達して遙に頭角を現し次いで林産、水産の天惠豊富な南那珂郡が二一、二四四、五七三圓、鑛山地方として誇る東臼杵郡が二〇、一三三、六六八圓にて之に亞ぎ、兒湯郡の一七、六六一、〇九六圓、西諸縣郡の一五、〇二四、一六九圓、宮崎郡の一三、〇八九、四九二圓、北諸縣郡の一三、九六四、八一二圓、四臼杵郡の一、九四五、六二二圓、宮崎市の一一、〇八一、八二七圓、都城市の一〇、五九三、一四八圓の順位にして何れも千萬圓を突破し、東諸縣郡は七、八三七、三七七圓にして最下位に在り、各郡市何れも前年に比し著しき増加を示してゐる。

現住戸數一戸當の産額は延岡市の三、四九〇圓が筆頭にして、南那珂郡の一、二五八圓之に亞ぎ、第三位は西臼杵郡の一、一五六圓以下、東臼杵郡の一、一四三圓、宮崎郡の一、〇二三圓、東諸縣郡の九九三圓、西諸縣郡の九七五圓、兒湯郡九五七圓、北諸縣郡八八五圓、都城市の八七四圓の順位にして、最寡は宮崎市の三三七圓である。而して縣平均は一、二六九圓となる。

五、町村別生産額

更に町村別に通觀すれば漁港油津町の六、七六〇、〇〇七圓その首位を占め、小林町の五、五一七、〇八八圓之に亞ぎ、東臼杵郡北方村の四、四二七、三九四圓、飯野村の二、九三四、六九八圓、岩戸村の二、九二

二、八三三圓、南那珂郡南郷村の二、八八六、一七九圓、高鍋町の二、八六四、七五八圓、高岡町の二、六九九、二二四圓、門川町の二、六四一、八二五圓、高崎村の二、五七五、七六三圓、高千穂町の二、五七二、二一五圓、川南村の二、二七〇、二九五圓、赤江町の二、一八六、八六九圓、西郷村の二、一五七、九六五圓、東臼杵郡東郷村の二、一一一、九九九圓、高原町の二、〇九九、八八七圓、清武村の二、〇六六、四一八圓、富島町の二、〇〇一、八四九圓の順位にして何れも二百萬圓以上の産額があり、その多くは何れも特殊資源を有する結果にして即ち油津町は近接町村より搬出したる木材を収集して用材となし、その産額が掲上され又遠洋漁業の水揚港として漁獲物が同町の産額となり、北方村、岩戸村は鑛山による生産額があり南郷村は漁類の水揚港を有し、高岡町、高崎村、高千穂町、西郷村の各町村は有力なる發電所を有する等である。

尙前記の外百萬圓以上の産額を有する町村は都農、南那珂郡北方、高城、田野、三股、野尻、椎葉、本庄、妻、三財、福島、志和池、生目、富田、上穂北、庄内、山田、廣瀬、綾、眞幸、南方、北川、中郷、住吉、諸塚、南那珂郡北郷、南浦、西嶽、加久藤、三ヶ所、山之口、吾田、新田、木花の各町村にして百萬圓以上の産額を有する町村は五十二ヶ町村となる。

然るに一町村平均産額は一、三九四、一九五圓となり、第二十九位にある本庄町の産額程度にして町村の六割七分は平均産額に達せざるわけである、又最も寡きは前年と同じく鞍岡村の三〇五、五二六圓であるが前年に比し三三、二二六圓の増加を示してゐる。

尙現住戸數一戸當生産額は油津町の二、六八八圓を筆頭に東臼杵郡北方村の二、五八六圓之に亞ぎ、南那

(生産額)

珂郡北方村の二、一六四圓、西郷村の一、九六五圓、南那珂郡南郷村の一、八三二圓、南浦村の一、七九四圓、高千穂町の一、六八七圓、岩戸村の一、五〇七圓の順位にして以上の外尙千圓を突破するものに東臼杵郡東郷、穆佐、清武、高岡、赤江、川南、田野、須木、鶴戸、酒谷、門川、三財、東臼杵郡北郷、富田、生目、西嶽、志和池、飯野、新田、上穂北、那珂、椎葉、高鍋、住吉、三ヶ所、木花、綾、小林、岩井川の二十九ヶ町村あり、九百圓臺にあるものは諸塚、南那珂郡北郷、南那珂郡東郷、瓜生野、木脇、上野、都於郡西米良、都農、野尻、高原、北浦の十二ヶ町村、八百圓臺にあるものは田原、山田、東臼杵郡東郷、都井、大東、山之口、眞幸、東米良、加久藤、香田、福島、高崎、倉岡、南方、三納の十五ヶ町村、七百圓臺に屬するものは青島、本城、七折、廣瀬、北川、高城、庄内、細田、木城、本庄、榎原、岩脇、八代、中郷、妻市木の十六ヶ町村、六百圓臺にあるものは三股、鞍岡の二ヶ村、五百圓臺に屬するものは美々津、富島、肥の三町にして最少なるは本年も佐土原町の四六三圓にして前年に比し四九圓の増加である。尙縣平均一戸當生産額は一、二六九圓にして前年に比し六八圓を増加し又現住人口一人當生産額は二二七圓にして前年に比し一二圓の是亦増加であり銃後に於ける縣民の緊張振りが窺はれる。

六、重 要 物 産

生産額調査品目中百萬圓以上の産額を有する品目を拾つてみるに先づ米の三三、九六七、五七九圓が目立ち年來の王冠は未だにゆるがず日向米の名聲も共に頼もしき限りで、林業王國を誇る木材の一八、〇二九、二八六圓之に亞いで何れも千萬圓以上の産額を挙げ、次いで蠶絲類の八、一三二、七一八圓、魚類の八、〇七

〇、六七五圓、電力の六、一〇八、〇九〇圓、繭の五、四九二、九一六圓、木炭の五、〇三五、六三一圓等は夫々五百萬圓以上の産額にして、麥は四百萬圓以上を、酒類、甘藷は三百萬圓以上、薪、本年生れ出でたるステールプルフアイバー絲、柴草が二百萬圓以上、木製品、生大根、鶏卵、澱粉、蠶種、切干大根、石材、菜種、肥料、菓子、産馬、綠肥用作物、製茶、チツソロイド、漬物、産牛、大豆は夫々百萬圓以上となり、之が種目は三五に達し前年の二六種目に比して九種目を増加し前年五十萬圓にありし澱粉、切干大根、肥料石材、産馬、製茶、チツソロイド、漬物、産牛、大豆は何れも本年に至りて百萬圓を突破したものである。今其中五百萬圓以上の産額品目につき其の生産地を觀れば、米に於ては都城市(一、八二四、八八三圓)、小林町(一、六八五、四八九圓)、延岡市(一、二三五、二二一圓)、宮崎市(一、〇九六、一九三圓)多く、木材は油津町(三、〇九八、四三四圓)、小林町(九七二、三〇〇圓)、宮崎市(九四〇、七七九圓)となるも、右は調査上製材地を以て産地として居る關係である、蠶絲類は製絲場を有する都城市(四、〇一〇、一〇〇圓)宮崎市(三、一五一、二八三圓)に於てその大部分を占め、魚類は漁港油津町(三、二六六、九五九圓)、南那珂郡南郷村(一、八三四、七二九圓)が主なる地方であり、電力は西郷村(二、三八八、七一一圓)、高千穂町(一、一六八、九六七圓)、高岡町(一、〇五一、六五三圓)等にして斯業が地理的に特に産地を限られてゐるのは止むを得ない、繭は都城市(四一九、八二六圓)、志和池村(二八七、六〇四圓)、三股村(二八一、九四八圓)、高城町(二六二、八六一圓)等にして北諸縣地方に於て大部分を占め、木炭は東西臼杵郡に多く産し北川村(四二五、二二三圓)、東臼杵郡東郷村(四一、五〇〇圓)、西米良村(三八二、四〇〇圓)、椎葉村(三三五、〇〇〇圓)等を主産地として擧げ得る。

(生産額)

尙ほ從來より本縣重要物産として數へらるる米、木材、蠶絲類、魚類、繭、木炭の六種に就き昭和四年を百とした指數を以て其の消長を觀れば何れも其の所屬する種類別産業の消長と同一曲線を描き、夫々農産、林産、蠶業、水産、各業の樞軸をなし従つて本縣産業の生命線と觀得る事が出来、蠶絲類を除く他は何れも年々著しき上昇の氣運にあることは喜ばしい現象である。

七、特 産 物

日向の特産物として著明なるものにつきみるに日向蜜柑(七一、一五八圓)の二割強(一四、七四八圓)は清武村に産し、椎茸は東臼杵地方に多くてその産額は九六六、五四一圓にして西郷村(七七、八九二圓)、七折村(六三、〇四〇圓)が比較的産額多く、又碁石はその名風にあはられ、日向白として逸品たり、其の産額は富島町(一七、八二〇圓)、岩脇村(一、八〇〇圓)の産である。尙各地に於て好評ある竹製品三五五、二二六圓は其の六割強は宮崎市(二〇三、五六三圓)より産し、豊富な材料はその指導と相俟つて將來有望である。

八、結 び

之を要するに生産額により觀たる本縣産業界は逐年旺盛に赴き本縣經濟界が活況を呈しつつあることが窺知出来る。殊に本年の如きは支那事變に伴ふ勞力不足の懸念も一掃され嘗てなき驚異的増産を示し前年に比し七分の増

産をみるに至つた、されど敢て一言を附しておくことは本縣の生産額は前述の通總額一九六、九五八千餘圓を計上せらるることは言へ工業額の約七六%、礦産額の約八六%、生絲の約三一%は共に縣外資本家の經營にかゝる生産に屬し、又水産額の約四〇%も縣外人の水揚げに屬するものなるを以て之等を控除するときは總額の約三七%即ち七二、八七四千餘圓は本縣の經濟界に爾く反映力あるものとせば想へぬことである。依つて茲に假に本縣民の純生産額とも稱し得べき前記金額を控除したる額を舉げて見ると總額一二四、〇八三、六四二圓、一月當約八〇〇圓となるを以て利用上の參考となす。

(生産額)

### 三 生産價額

(累年比較)

年	總價額	農産	蠶絲	畜産
昭和十三年	一九六、九五八、一七七 <small>円</small>	五七、八四五、七八九 <small>円</small>	一五、〇一五、七五六 <small>円</small>	五、七九九、九三三 <small>円</small>
昭和十二年	一八四、八二七、三二七	五二、六〇二、八四五	一五、四一八、九六八	四、五三六、四〇三
昭和十一年	一六六、九六八、五七六	四六、八四七、九一五	一五、二六五、四二〇	三、七八三、五八九
昭和十年	一三八、〇四九、一三六	三八、七三一、〇四七	一五、二一一、七〇七	三、五一四、五二五
昭和九年	一三四、三三三、七三一	三三、一六一、二九五	一二、〇二八、〇八五	三、一九三、八四一
昭和八年	一〇一、七四五、四一八	三四、五八五、七一四	一五、四三四、六四一	二、七三五、一四〇
昭和七年	七九、三九七、五六〇	三〇、三三〇、二五一	一一、八二二、〇九九	二、五五九、一八五
昭和六年	七〇、七二八、二三八	二四、九六八、五九一	一一、七〇七、八三五	二、七九八、六〇九
昭和五年	八四、一〇七、一六〇	三二、七二八、一六四	一五、七七九、三七一	三、三七六、三二〇
昭和四年	一一六、〇五七、四九四	四五、五二二、八三五	二八、七〇九、九〇八	四、〇六五、六三八

(生産額)

昭和三十二年	昭和三十一年	昭和三十年	昭和二十九年	昭和二十八年	昭和二十七年	昭和二十六年	昭和二十五年	昭和二十四年
三〇、一三三、五五四	二六、一七一、八六四	一八、七五四、〇一七	一四、四八〇、二九二	一四、〇二七、二三四	一二、四五二、二三八	九、八五六、八二五	九、四五八、五六九	一〇、五三七、二九〇
一〇、二三一、〇八〇	八、七六六、二九八	七、三六二、八六四	六、二五三、四二九	五、七二四、一九一	五、七〇八、三三三	五、一三一、五三九	四、九六三、三六三	六、三〇〇、四八一
七、〇九五、七七七	七、一七四、二〇八	七、〇八五、〇九五	五、五、三三八、八九一	五、二、一八九、三三五	二七、二六一、〇五二	一七、七二〇、一六八	一五、四七三、四七六	一六、九一六、三八九
七、〇三七、二八八	五、五八二、七三二	四、一〇四、〇七六	四、五九九、二三七	四、〇一九、七五〇	三、五六八、三〇〇	一、九七七、四九三	一、三四七、七九五	一、六八五、九一四

林産  
水産  
工産  
礦産

郡市別 昭和十三年

宮崎郡	南那珂郡	北那珂郡	西諸縣郡	東諸縣郡	兒湯郡	東白杵郡	西白杵郡	宮崎郡	都城市	延岡市
一三、〇八九、四九三	二二、二四四、五七三	一一、九六四、八二二	一五、〇三四、一六九	七、八三七、三七七	一七、六六一、〇九六	二〇、一三三、六六八	一一、九四五、六三三	一一、〇八一、八二七	一〇、五九三、一四八	五五、三八二、三九三
八、〇〇一、六〇四	五、六五五、九九八	七、一〇五、七七二	八、二五六、七一一	三、九九二、四一三	九、二二三、八六二	五、二八七、一八八	三、六〇八、四三四	二、三六一、三九三	二、四四三、〇一八	一、八九九、四〇六
七、四二、九一〇	二、三四、六七二	二、二六、四五七	四、八五、七一一	五、七六、八六三	一、六〇〇、〇七五	三、七七、三三五	三、八一八、五九四	四、九〇五、一六三	七、六、六九九	
三、五七、二九九	五〇九、三三〇	六、七〇、三三四	九、六三、三一	三、四、〇二七	六、七七、一九五	五、八八、〇三五	四、七、九一一	三、〇五、四一九	五、九四、四六一	三、四七、六四一

總額  
農産  
蠶絲  
畜産

百分比例 (生産額)  
100%  
二九%  
八%  
三%

露光量違いの為重複撮影

農

業

耕地九萬五千町

耕作農家八萬二千戸

百分比	延岡市	都城市	宮崎市	西臼杵郡	東臼杵郡	兒湯郡	東諸縣郡	西諸縣郡	北諸縣郡	南那珂郡	宮崎郡
林産	七七八、〇八三	八二八、四七六	一、一三一、七三三	二、七五六、〇七八	五、一八四、八六一	三、四七四、五〇八	八五一、二九〇	三、四三〇、四七二	一、八三九、七六八	七、三六七、六八二	二、四六九、六〇三
水産	九〇六、七九一	四九、八五六	一九六、五七七	一八、九七二	二、六〇九、一五一	三三三、五〇〇	三三、一三三	三〇、五三六	九、四三四	五、七三二、七五六	三三三、四〇五
工産	五一、三四一、一〇四	一、七六三、七七四	三、二五三、六八三	二、五二八、七四七	二、六二二、九三〇	二、一四三、七二二	二、〇五〇、六四四	一、二四九、八四五	一、一九二、二七二	一、六〇七、八六一	一、一六一、二四五
礦産	二二、六六九	八、四〇〇	一四、四二八	二、四九九、一〇八	三、四六四、二八八	二〇九、二四四	二〇、〇五八	六〇七、五八八	二〇、七八五	一三七、二九四	三三、四二六
合計	一五%	五%	三六%	五四%	四%						

# 露光量違いの為重複撮影

農

業

耕地九萬五千町

耕作農家八萬二千(戸)

百分比例	延岡市	都城市	宮崎市	西臼杵郡	東臼杵郡	児湯郡	東諸縣郡	西諸縣郡	北諸縣郡	南那珂郡	宮崎郡	林産	水産	工産	鑛産	
一五%	七八、〇八三	八二、四七六	一、三二、七五三	二、七五六、〇七八	五、一八四、八六一	三、四七四、五〇八	三、四三〇、四七三	八五一、二九〇	一、八三九、七六八	七、三六七、六八二	二、四六九、六〇三	四	九〇六、七七一	四九、八五六	一、七六三、七七四	八、四〇〇
五%				一九六、五七七	一八、九七三	二、六〇九、一五一	三〇、五三六	三二、一二三	九、四二四	五、七三一、七五六	三二、三、四〇五	四	五、三三一、二七二	一、九二二、二七二	二〇、七八五	二〇、七八五
三六%				三、二五三、六八三	二、五二八、七四七	二、六三二、九三〇	一、二四九、八四五	二、〇五〇、六〇四	一、二四九、八四五	一、六〇七、八六一	一、一六一、二四五	四	五、一、三四一、一〇四	一、七六三、七七四	二、四九、二八八	二、四九、二八八
四%				二、二四三、七二二	二、五二八、七四七	二、六三二、九三〇	一、二四九、八四五	二、〇五〇、六〇四	一、二四九、八四五	一、六〇七、八六一	一、一六一、二四五	四	二、二、六六九	一、七六三、七七四	二、四九、二八八	二、四九、二八八

## 概 説

本縣は氣候温暖地味肥沃にして最も農作物の生育に適し農を以て主業と爲すもの現住戸数の五割六分、本業有業者の六割五分を占む、従つて農業は本縣主要の産業にして之れが盛衰は直に本縣の經濟界に影響を及ぼすこと甚大である。

**耕地面積** 本縣耕地の總面積は九四、一五七町六反歩にして内田反別四八、三三四町歩(五割一分)、畑反別四五、八二三町六反歩(四割九分)である、而して郡市中最も廣いのは兒湯郡の一五、六二一町六反歩にして北諸縣郡の一五、一三九町八反歩之に亞ぎ、西諸縣郡の一三、五六四町八反歩、宮崎郡の一〇、一一九町七反歩、南那珂郡の九、六二一町二反歩相亞で共に一萬町歩を超へ東臼杵郡は八、五三六町三反歩、東諸縣郡は六、四四七町一反歩、西臼杵郡は五、七五五町六反歩にして何れも五千町歩以上に屬しそれ以下は三市即ち都城市の四、四八七町歩、宮崎市の二、五二一町九反歩、延岡市の二、三四二町六反歩となつてゐる。

尙各郡市に於ける耕地の田畑の割合を示すと宮崎、南那珂、東諸縣、東臼杵の各郡及宮崎、都城、延岡の各市は共に田の反別若千多く即ち五割以上を占むるが其の他の郡は夫れと反對の現象を示し就中西臼杵郡の如きは畑六割、田四割の比例を示して居る。

更に一方里當の耕地面積を見るに市部に於ては都城市の九四六町六反歩を首とし、宮崎市の六三〇

(農業)



町五反歩之に亞ぎ、延岡市は二〇七町五反歩で、郡部に於ては宮崎郡の三七一町二反歩、北諸縣郡の三三八町八反歩が多く、東諸縣郡の二五八町九反歩、西諸縣郡の二二三町三反歩、兒湯郡の二〇五町九反歩之に相亞ぎ、南那珂郡は一七七町九反歩、東臼杵郡は八三町二反歩にして、西臼杵郡は僅に六二町九反歩に過ぎない。

耕地整理

本年八月末日に於ける耕地整理地區の總數は一、〇八五區で前年に比し二九區を増加し其の従前面積は三三、六〇一町三反歩で此の整理後の豫定面積は三七、六三七町二反歩なる見込である。

尙其の事業費は一八、一三二、八三七圓を豫算し即ち従前面積一反歩當り五三圓九六錢となる、今其の事業の經過の概要を示せば

事業終了 既に事業を終つた地區は一七二で前年に比し八區を増加し此の従前面積は四、八一七町八反歩に對し之が整理後の確定面積は五、三四二町八反歩となるので従前面積に比し五二四町七反歩を増加する。尙其の事業費決算額は一、九九二、〇二四圓である。

工事終了 未だ事業終了に至らざるも既に工事を完了した地區は二二五で前年に比し一四を増加し此の従前面積は九、〇七五町五反歩之が確定面積は一〇、四六三町七反歩なる見込で従前面積に比し一、三八八町二反歩の増加を示すこととなり此の事業費豫算額は二、六一二、〇六八圓となつてゐる。

工事未完了 未だ工事中に屬する地區は六八八で前年に比し七區を減じ、此の従前面積は一九、七〇八町歩であるが工事終了後は二一、八三一町五反歩となる豫定で其の事業費は一三、五二八

米

、七四五圓を要する見込である。

米は本縣農産物中首位を占むる重要物産にして本年に於ける收穫高は一、〇四四、一六一石、價額三三、九六七、五七九圓に達し總生産額の一割七分、農産物生産總額の五割九分に當り、而も其の品質に於ても夙に全國に日向米の聲價を博するに至つた。而して本年の稲作は天候順調にして苗の育成概ね良好に進み挿秧後縣北部山間地域に於て僅かに局部的に稻熱病の發生を見、相當の被害を蒙りたるも其の他は挿秧以來究めて順調に進み八月十五日現在による作況は「良」十八箇市町村「稍良」四十六箇市町村、「普通」二十一箇町村、「稍不良」三箇町村、「不良」三箇町村にして平年作柄を凌駕する「稍良」と認定せらるるに至つた。而して其の後に於ても一般に好天候に惠まれ氣温も相當の高温を示し稲作氣象としては申し分なく九月二十日現在の第一回豫想收穫高は百四萬四千二百八十石にして未曾有の豐作を豫想せられたが偶々十月十四、十五兩日に互り襲來した暴風雨は縣南の一部海岸地方に埋没、流失、倒伏等相當の災害を蒙りたるも成熟期に入り一部縣北山間地方に穗首稻熱病の發生したることによりて十月末日現在の第二回豫想收穫高は百一萬八千七百九石となり第一回豫想收穫高に比し二萬五千五百七十石(二分四厘)の減收を示した。而して其の後天候は概して順調に進み實收の結果は百四萬四千六百一十一石となり置縣以來の最高記録を見るに至つた。

産米検査成績

本年中に於ける生産検査の總數は一、〇〇八、八一〇俵にして、前年に比し一〇六、九〇九俵の増加となり、内七分の不合格を出し合格歩合は前年と同様九割三分の高率を示してゐる。今之れを各郡市別に就て觀れば西諸縣郡の二七〇、二六三俵を筆頭とし北諸縣郡の二三五、四九一俵之

(農業)

麥

に亞ぎ、兒湯郡の一四、八四七俵、宮崎郡の七四、五一四俵、都城市の七〇、八八八俵、南那珂郡の六一、八八九俵、東諸縣郡の六〇、八六五俵、東臼杵郡の五一、四七一俵、延岡市の二八、二五四俵、宮崎市の二三、七六三俵、西臼杵郡の六、五六五俵の順位にして之を前年に比較するときは西臼杵郡を除く他の郡市は何れも増加を示した。而して其の合格歩合の最も良好であつたのは都城市及北諸縣、西諸縣郡の九割九分にして之に亞ぎ東諸縣の九割五分、南那珂の九割四分、宮崎の九割三分、西臼杵の八割九分、東臼杵の八割三分の順位で、最も低率なるは延岡市の四割一分であるが之を前年と比較するときは各郡市とも何れも合格歩合の向上を示した。更に移出検査に就いて觀れば検査總數五八九、七八四俵にして前年に比し一〇五、三四七俵の増加を示し、合格歩合は九割八分にして一般に良好の成績を示した。

麥は本縣農産物中米に亞ぎ第二位を占むる重要農産物にして昭和十三年に於ける作付反別は二萬八千五百町二反歩にして之が收穫高は二十二萬九千四百七十一石、價額は四百十四萬五千八百十五圓となつてゐる。

而して作付反別は前年に比し三七〇町三反歩、收穫高は三九、八一石の何れも減收を示した。尙之を平年作と比較するときは作付段別に於て一、一四三町九反歩(四分)、價額九一〇、七九〇圓(二割八分)の増加を示してゐるも收穫高は六八、四一二石(二割三分)の減少を示してゐる。次に最近十箇年間に於ける趨勢を觀るに作付段別は昭和十一年に亞ぎ第四位、收穫高は昭和三年に亞ぎ第七位、價額は第二位にある。尙之を種類別に觀るときは稈麥は昭和四年より逐年遞減の歩調となつてゐる。

燕麥

を示したが昭和十年よりは漸増の傾向を辿り、大麥は依然として漸減の一途を辿り本年の如きは最近十箇年間に於ける最少の段別である。小麥は前年に比し一一〇町四段歩の減少を示したが之を平年作と比較するときは實に一、一四五町八反歩の増加となつてゐる。

昭和十三年に於ける燕麥は

作付段別	二、一〇一町六反	前年に比し	一、五四町七反	(八分) 増
收穫高	三三、七五石	同	三、八四石	(一割六分) 増
價額	三、四九、八二圓	同	九、三九圓	(四分) 増

にして之を昭和十二年の各道府縣の事實に就き觀るも作付段別は北海道、鹿児島に亞ぎ第三位、收穫高は北海道に亞ぎ第二位を占めて居る。

食用農産物 昭和十三年に於ける食用農産物は

總作付段別	二五、八九九町〇反	前年に比し	二、七九町六反	(一分) 増
總價額	五、九〇五、五九圓	同	三、〇〇、七四圓	(五分) 増
甘藷	一、二九四町〇反	前年に比し	五、三六町九反	(四分) 減
作付段別	四、八九九、五九圓	同	二、一八、二六圓	(六分) 減
收穫高	三、六二、四五六圓	同	六二、八三六圓	(二分) 増
價額	一、二九〇町一反	前年に比し	七、九町八反	(六分) 増
大豆	四、五、〇六三石	同	一石	(〇分) 増
作付段別	一、〇〇一、八七圓	同	六九、四五圓	(七分) 増
收穫高				
價額				

(農業)

蕎麥	作付段別 價 額	三、七五町八反 三〇、〇三石	前年比し	一九五町三反 二、三八石	(五)分減
粟	作付段別 價 額	三、八七町三反 二五、九三石	前年比し	三三〇町二反 八四石	(一)割六分増
	收穫高 價 額	三、四三、六二四圓	同	三、四七〇圓	(一)割二分増

園藝農産物 本縣は耕地廣く氣候温暖にして園藝經營上有利なる天恵を有し一面又海陸運輸の便開かるゝと共ニ販路も著しく擴張せられ今や面目を一新し躍進的發達を見るに至つた。就中早熟蔬菜の栽培は温暖なる天恵を利用し、品種の統一、栽培並荷造法の改善に全力を注ぎ、販賣斡旋に努めたる結果愈々長足の進歩を見るに至り、而して之が販路は京濱、北陸、京阪神及中國を始めとし北九州、遠くは滿鮮方面にも及び、六、七月の收穫盛期には臨時列車に依り或は汽船の船腹を滿して輸送するの盛況を呈し今や將に全國に其の覇を稱ふるに至つた。今年年の概況を觀るゝ、蔬菜及花卉は

總價	額	五、三三、九四九圓	前年比し	二六七、三七〇圓	(五)分減
南瓜	作付段別 價 額	九、五九町九反 三、〇五四、四一貫	前年比し	一〇九町五反 一、六三、九六六貫	(一)割五分増
	收穫高 價 額	七、六七、五〇九圓	同	六三、一五二圓	(九)分増

にして其の主要なるものに就き前年との比較を觀るに

南瓜は他の府縣に魁け四月には既に出荷するを以て本縣早熟蔬菜中の覇を握り需用地に於て最も歡迎せられ前途益々多望である。而して之が出荷に就ては縣は縣農會及郡市農會と共に出荷團體の指導に努め容器並品質の検査乃至出荷の統制等に徹底的改善を促し又一面鐵道省、商船會社等と協議の上輸送の圓滑を期しつゝある。

西瓜	作付段別 價 額	五、七九町五反 一、九九、〇〇三貫	前年比し	八二町五反 一、三、四三六貫	(一)割二分減
	收穫高 價 額	四、三六、二五九圓	同	八三、二九九圓	(二)割三分増

西瓜は生産の増加と共に品質も改良統一せられ關西市場は勿論近時東京地方へも移出せらるゝに至り六月上旬には既に市場に現はれ臺灣、沖繩の産に亞ぎ初夏の嗜好品として各都市に歡迎せられ將來益々有望の産業である。

里芋	作付段別 價 額	一、四八三町七反 五、三三、九六三貫	前年比し	一〇一町八反 三、九七、七四貫	(六)分減
	收穫高 價 額	八三六、九六七圓	同	五、五三三圓	(七)分増

里芋は最も栽培容易にして且つ本縣はその早熟栽培に適するを以て縣の奨励と相俟つて近來著しく増殖の傾向を辿り京阪神及北九州地方の市場に於て歡迎せられ品種は石川早生、愛媛早生、赤芽を主とし西臼杵郡、宮崎市、北諸縣郡、東臼杵郡の諸地方が主産地である。

蘿蔔	作付段別 價 額	三、一七町五反 三、五、六四、八四七貫	前年比し	三、二七町三反 四、六四〇、八九四貫	(一)割一分増
葡萄	收穫高 價 額	一、四八四、九二五圓	同	四、三五、三〇〇圓	(四)割一分増

(農業)



三 農產物價額 (累年比較)

昭 和 十 一 年	昭 和 十 二 年	昭 和 十 三 年	總 價 額	總 額	米	大 麥	裸 麥	小 麥
四 六 、 八 四 八 、 一 六	五 七 、 八 四 六 、 三 一 三	五 七 、 八 四 六 、 三 一 三	四 六 、 七 五 四 、 二 〇 三	五 七 、 七 五 八 、 五 一 六	三 三 、 九 六 七 、 五 七 九	一 八 〇 、 四 三 五	二 、 〇 七 六 、 五 四 七	一 、 八 八 八 、 八 四 三
五 二 、 六 〇 三 、 八 四 五	五 二 、 六 〇 三 、 八 四 五	五 二 、 六 〇 三 、 八 四 五	四 六 、 七 五 四 、 二 〇 三	五 三 、 五 〇 〇 、 八 一 四	三 〇 、 九 六 六 、 一 〇 九	一 六 八 、 六 九 七	二 、 二 八 五 、 八 七 三	二 、 一 五 四 、 一 七 八
五 七 、 八 四 六 、 三 一 三	五 七 、 八 四 六 、 三 一 三	五 七 、 八 四 六 、 三 一 三	四 六 、 七 五 四 、 二 〇 三	四 六 、 七 五 四 、 二 〇 三	二 八 、 二 九 八 、 五 六 一	一 三 四 、 四 六 六	一 、 九 四 五 、 〇 四 三	一 、 六 九 九 、 五 四 五

昭 和 十 一 年	昭 和 十 二 年	昭 和 十 三 年	燕 麥	食 用 農 產 物	園 藝 農 產 物 (果 實)	園 藝 農 產 物 (蔬 菜 及 花 卉)	工 藝 農 產 物	農 產 製 造 物
二 四 九 、 八 一 二	二 四 九 、 八 一 二	二 四 九 、 八 一 二	二 四 〇 、 五 八 三	五 、 九 〇 五 、 五 八 九	一 、 一 一 五 、 九 一 五	五 、 三 三 三 、 九 四 九	二 、 九 〇 〇 、 五 五 五	三 、 〇 二 五 、 九 三 四
二 三 五 、 二 〇 七	二 三 五 、 二 〇 七	二 三 五 、 二 〇 七	二 三 五 、 二 〇 七	五 、 六 〇 五 、 〇 一 五	一 、 〇 一 一 、 五 九 二	四 、 五 七 八 、 七 三 四	二 、 五 五 五 、 〇 二 五	一 、 九 一 七 、 二 九 九
二 四 九 、 八 一 二	二 四 九 、 八 一 二	二 四 九 、 八 一 二	二 三 五 、 二 〇 七	五 、 三 五 一 、 四 五 三	七 七 一 、 九 六 〇	四 、 一 二 六 、 四 〇 四	一 、 六 五 二 、 三 〇 六	一 、 五 八 〇 、 五 四 〇

昭 和 十 一 年	昭 和 十 二 年	昭 和 十 三 年	果 樹 苗	綠 肥 用 作 物	飼 料 用 作 物	桑 苗
一 〇 、 四 八 二	一 〇 、 四 八 二	一 〇 、 四 八 二	九 、 五 〇 七	九 六 二 、 三 九 九	一 五 一 、 四 八 七	八 七 、 七 九 七
九 、 一 一 三	九 、 一 一 三	九 、 一 一 三	九 、 一 一 三	一 、 〇 一 八 、 三 二 二	??	九 三 、 九 一 三
一 〇 、 四 八 二	一 〇 、 四 八 二	一 〇 、 四 八 二	九 、 一 一 三	九 五 九 、 六 〇 五	??	九 三 、 九 一 三

昭昭和十一年 昭昭和十二年 昭昭和十三年

耕作耕地廣狹別農家戶數 (年末現在)

總數	五段未滿	五段以上	一町以上	二町以上	三町以上	五町以上
八二,四九二	二六,四七九	二五,二四〇	三三,一三三	六,二二一	一,四四四	九五
八二,六四四	二七,一六七	二五,九六二	三三,一七五	五,六二七	一,五七三	一〇
八二,〇八三	二六,七〇四	二六,三五九	二二,二二五	六,〇八七	一,六〇七	一一七

昭昭和十一年 昭昭和十二年 昭昭和十三年

耕地所有別農家戶數 (年末現在)

總數	未五段	未一町	未二町	未三町	未四町	未五町	以上五町
七八,一三〇	三三,一八五	二〇,七五五	一六,三二七	五,〇三三	一,八一〇	九八一	一,〇三九
八一,七三三	三六,四五九	二二,一七九	一五,五三三	四,七四二	一,七九三	八八五	一,一三五
八〇,八八六	三七,一二三	二二,二六	一四,二六四	四,五四九	一,七二四	八三九	一,一七二

昭和十三年

郡	市	別
七,九八三	三,二二九	一,八八五
八,六六九	三,三一	二,六八七
九,五七一	三,三一五	二,四八五
七,六五三	二,四二六	一,六九五
		一,八六〇
		二,一二一
		二,三六六
		一,九二五
		五七九
		三八一
		三九一
		三九四
		一九〇
		一三六
		一三三

東兒白 西東白 宮崎 延都宮 岡城崎 市市市 枿枿湯縣

地區	工區	從前	豫定又ハ	豫定	豫算業額	從前面積
四,四八七	一,六四三	一,四一五	一,三二二	一,三二二	六九	八九
一〇,七三五	三,三三九	二,八六六	二,九七〇	二,九七〇	二四一	二四一
一〇,八〇六	五,八九〇	二,二二六	一,五〇五	一,五〇五	四三	一一
六,〇九七	二,一〇五	九五八	一,〇三二	一,〇三二	三〇	二一
三,六〇〇	二,〇一三	九五八	一,〇三二	一,〇三二	八四	四七
五,六二七	二,八八八	一,〇三二	一,二五三	一,二五三	七九	四七
二,九〇二	二,〇四七	五三六	二一〇	二一〇	四八	三七

三 耕地整理

昭昭和十一年 昭昭和十二年 昭昭和十三年

地區 工區

地區內面積

地區	工區	從前	豫定又ハ	豫定	豫算業額	從前面積
一,〇八五	一,一六四	三三,六〇一	三七,六三七	三七,六三七	一八,一三三	五三,九六
一,〇五六	一,三六〇	三三,四七六	三六,四五五	三六,四五五	一五,二一八	四六,八六
一,〇四二	一,一三三	三一,八六〇	三五,七七四	三五,七七四	一四,〇四四	四四,〇八

三七 米

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

總數  
作付段別  
水稲  
陸稻  
總數  
收穫高  
水稲  
水稲  
陸稻

五三、六九五・三  
五三、三三四・四  
五三、四一三・四  
四四、五二九・五  
四四、三四六・七  
四四、三九五・九  
三、一五一・〇  
三、〇九一・六  
三、一五〇・八  
六、〇一四・八  
五、八九六・一  
五、八六六・七  
一、〇四四、一六一  
九七六、九六六  
九九七、七二七  
九〇三、七〇一  
八四九、二七九  
八六九、四九四

收穫高  
陸稻  
價額  
一段步收穫高  
水稲  
水稲  
陸稻

六一、三三六  
五五、九八四  
五九、二四〇  
七九、一三四  
七一、七〇三  
六八、九九三  
三三、九六七、五七九  
三〇、九六六、一〇九  
二八、二九八、五六一  
二、〇三九  
一、九一五  
一、九五九  
一、九四七  
一、八一七  
一、八八〇  
一、三二五  
一、三二六  
一、一七六

二六 米穀検査

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

元大 麥

検査總數  
合格  
格外  
合格歩合  
検査總數  
合格  
格外  
合格歩合  
移出検査

一、〇〇八、八一〇  
九〇一、九〇一  
八八九、六五〇  
九四〇、四一四  
八三五、三六二  
八〇三、六九〇  
六八、三九六  
六六、六三九  
八五、九六〇  
九三、三二二  
九二、六一一  
九〇、三四四  
五八九、七八四  
四八四、四三七  
四三九、五八〇  
五七六、八二二  
四七四、二九〇  
四三〇、九〇五  
一三、九七二  
一〇、一四七  
八、六七五  
九七、八〇〇  
九七、九一〇  
九八、〇三三

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

(農業)

作付段別  
總數  
收穫高  
田  
畑  
價額  
收一段  
收穫高歩

一、一四七・八  
一、〇四八・七  
一、二〇八・五  
一五、〇八二  
一五、八七八  
一三、八〇四  
四、四八〇  
四、七四八  
四、五六三  
一〇、六〇二  
一一、一三〇  
九、二四二  
一、八〇〇、四二五  
一、六八、六九七  
一、三四、四六六  
一、三三四  
一、五二四  
一、一四二

豆大	總數	作付段別		收穫高	價額
		昭昭和十一年	昭和十二年		
昭昭和十一年	昭昭和十一年	五、二九〇・一	二五、八九九・〇	四五、〇六三	一、〇〇一、八二七
昭和十二年	昭和十二年	五、二〇〇・三	二六、一七八・六	四五、〇六四	九三三、三七二
昭和十三年	昭和十三年	五、五二九・六	二六、四七二・九	四七、四三三	八九一、三五七
豆小	總數	作付段別		收穫高	價額
昭昭和十一年	昭昭和十一年	八七二・八	九二二・八		
昭和十二年	昭和十二年	八七二・三	八七二・三	六、二六五	一五九、六七二
昭和十三年	昭和十三年	八七二・五	八七二・五	六一九三	一四〇、九八三
豆紅	總數	作付段別		收穫高	價額
昭昭和十一年	昭昭和十一年	一二三・〇	一二三・〇		
昭和十二年	昭和十二年	一二六・〇	一二六・〇	八五〇	一八、六〇二
昭和十三年	昭和十三年	一二五・五	一二五・五	八五〇	一七、三七七

三 食用農産物

昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	作付段別		總數	收穫高	價額
			昭昭和十一年	昭昭和十二年			
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	二、一〇二・六	二、一〇二・六	二、一〇二・六	一〇、四〇八	一三、三七七
昭昭和十二年	昭昭和十三年	昭昭和十一年	一、九四六・九	一、九四六・九	一、九四六・九	一一、九六三	一五、六六八
昭昭和十三年	昭昭和十一年	昭昭和十二年	二、〇一四・一	二、〇一四・一	二、〇一四・一	一三、〇七〇	一七、二五八
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	二、一〇二・六	二、一〇二・六	二、一〇二・六	一〇、四〇八	一三、三七七
昭昭和十二年	昭昭和十三年	昭昭和十一年	一、九四六・九	一、九四六・九	一、九四六・九	一一、九六三	一五、六六八
昭昭和十三年	昭昭和十一年	昭昭和十二年	二、〇一四・一	二、〇一四・一	二、〇一四・一	一三、〇七〇	一七、二五八

三 燕

麥

昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	作付段別		總數	收穫高	價額
			昭昭和十一年	昭昭和十二年			
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	二、二〇三・二	二、二〇三・二	二、二〇三・二	八八、二二七	一、八八八、八四三
昭昭和十二年	昭昭和十三年	昭昭和十一年	二、三三三・六	二、三三三・六	二、三三三・六	一〇六、九四四	二、一五四、一七八
昭昭和十三年	昭昭和十一年	昭昭和十二年	二、六九四・八	二、六九四・八	二、六九四・八	一〇〇、二〇六	一、六九九、五四五
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	二、二〇三・二	二、二〇三・二	二、二〇三・二	八八、二二七	一、八八八、八四三
昭昭和十二年	昭昭和十三年	昭昭和十一年	二、三三三・六	二、三三三・六	二、三三三・六	一〇六、九四四	二、一五四、一七八
昭昭和十三年	昭昭和十一年	昭昭和十二年	二、六九四・八	二、六九四・八	二、六九四・八	一〇〇、二〇六	一、六九九、五四五

三 小

麥

昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	作付段別		總數	收穫高	價額
			昭昭和十一年	昭昭和十二年			
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	一、四七五・二	一、四七五・二	一、四七五・二	二六、一五二	二、〇七六、五四七
昭昭和十二年	昭昭和十三年	昭昭和十一年	一、五一一・二	一、五一一・二	一、五一一・二	一四六、四六〇	二、二八五、八七三
昭昭和十三年	昭昭和十一年	昭昭和十二年	一、五四四・五	一、五四四・五	一、五四四・五	一四四、四三四	一、九四五、〇四三
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	一、四七五・二	一、四七五・二	一、四七五・二	二六、一五二	二、〇七六、五四七
昭昭和十二年	昭昭和十三年	昭昭和十一年	一、五一一・二	一、五一一・二	一、五一一・二	一四六、四六〇	二、二八五、八七三
昭昭和十三年	昭昭和十一年	昭昭和十二年	一、五四四・五	一、五四四・五	一、五四四・五	一四四、四三四	一、九四五、〇四三

三〇 稈

麥



(農業)

梨	橙夏	柿生	其他類柑	柑蜜向日	ルブーネ ジシレオ
昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年	昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年	昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年	昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年	昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年	昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年
一一八、五九五 一一九、二八一 一二三、二四二	一六、二三五 一六、五〇五 一七、一八六	二九二、四八一 二九一、五八五 二八七、〇五七	七三、七〇四 六六、四六三 七九、二四〇	四七、三二四 四六、六七七 四二、五七八	一五、八七五 一八、二〇六 一七、一六〇
四七四、二五六 三三七、六三四 三四三、一六二	六〇、四九九 五六、七四五 五八、四九八	一、四六七、六五〇 一、五二一、八八八 一、二三〇、九三三	一九三、四三七 一九一、五六五 一五二、七六八	一一八、一六一 七四、五七四 七一、六七五	三二、五〇三 三四、四六九 二四、〇四三
二〇四、四六二 一三五、七二七 一一一、一八四	一八、六九四 一五、八七一 一四、七〇五	二五〇、五六八 二〇三、三三一 一五八、六〇二	四一、五八四 三六、三〇九 二五、八八一	七一、一五八 四四、〇〇〇 四二、〇七五	一六、七六七 一五、八六五 一〇、九九一

梅	桃	葡萄	枇杷	其他
昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年	昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年	昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年	昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年	昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年
八〇、五〇三 七九、三六四 八〇、一七五	四五、四五二 四五、七五一 五〇、六三〇	一〇、八一八 一一、二〇一 一二、五七五	二二、二五五 二二、七〇四 二二、八一四	五六 五六 五六
一一〇、七〇二 九、五六六 一一、一五五	六〇、四三二 六〇、六三六 七三、三九九	一九、〇六〇 一九、二五五 一八、五〇三	三四、〇九八 三三、一四四 三二、九八〇	三〇
一三六、一九九 一〇八、一八九 一〇九、一〇九	二二、〇八一 二二、三三四 二四、三四四	一〇、九九一 一〇、七三三 九、五一五	一四、九八六 一五、二七一 一五、二三三	一五

三 園藝農産物

總數	蕎麥	黍	稗	粟
昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年	昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年	昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年	昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年	昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年
一一一 一一一 一一一	三、七五三・八 三、九四九・一 四、九五五・三	一〇九・九 九六・四 一一五・六	一五七・八 二一六・三 二四二・八	二、三七八・三 二、〇五七・二 二、一九九・八
一一一 一一一 一一一	三〇、〇三三 二七、八一五 三七、七〇三	九五六 九五六 一、〇六四	一、三三二 一、八〇五 二、二四九	二五、九三三 二五、一四九 二七、七三四
一一一 一一一 一一一	三二、二、三七五 二九五、六〇五 四三〇、九八三	一一、〇三〇 九、八五七 一一、〇三〇	一一、二、六五一 一四、九三六 一七、九五〇	三四三、六一四 三〇八、一六七 三四四、五〇七

(果實)

柑蜜	甘藷	馬鈴薯	玉蜀黍
昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年	昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年	昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年	昭和十一年 昭和十二年 昭和十三年
四三八、六七〇 四三三、七七二 三九六、七一一	一一、二九四・〇 一一、八二〇・九 一〇、八七九・一	二九七・三 二七六・二 二六四・二	一、五五五・〇 一、五五三・九 一、六四三・五
一一、〇三三、二八三 一、四三七、二六〇 八二〇、一九四	四四、八九九、五八九 四七、〇一七、七五五 四一、九一〇、九九〇	六八〇、九四六 六四八、〇二四 六六一、五二七	一六、四三六 一五、八八四 一六、四五七
三四八、四一〇 四〇四、五七二 四三〇、三二一	三、六一二、四五六 三、五五〇、六二〇 三、二九四、〇六六	一一二、六二九 一〇二、八〇九 九九、七八八	二五九、八六二 二二二、三六六 一八八、〇七二

(農業)

作物	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年
葡萄	二,七五〇・五	二,八五〇・二	三,一七七・五
合百花	〇・〇	〇・〇	〇・〇
瓜越	三,四〇二	三,〇〇七	二,八〇四
蘿	二,二八〇	二,三〇〇	二,二七〇
茄蕃	一,三二〇	一,四〇〇	一,三〇〇
茄	四,六三〇	四,四〇〇	四,一五〇
頭葱	一,四六〇	一,三五〇	一,二二〇
葱	一,八六〇	一,七七〇	一,七四〇
芋青	一,六〇七	一,五八四	一,四八二
勞牛	二,五八〇	二,四二〇	二,三二〇
葡萄胡	一,七三〇	一,六三〇	一,六二〇
菁蕪	一,八二〇	一,八二〇	一,七二〇

園藝農產物 (蔬菜及花卉)

作物	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年
豆菜	三,五〇〇	三,六〇〇	三,二〇〇
豆蠶	三,五〇〇	三,六〇〇	三,二〇〇
藍甘	一,四九〇	一,三九〇	一,三九〇
豆豌豆	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇
數總	一,一〇〇	一,一〇〇	一,一〇〇
瓜胡	二,七五〇	二,八五〇	二,六〇〇
瓜甜	四,〇〇〇	四,一〇〇	四,二〇〇
瓜西	七,六〇〇	七,七〇〇	七,八〇〇
瓜南	一,〇〇〇	一,〇〇〇	一,〇〇〇
生花落	三,〇〇〇	三,〇〇〇	三,〇〇〇

(農業)

品名	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年	作付段別	收穫高	價額
蔗甘	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年	五五〇・二 六〇〇・〇 五七〇・一	二八九、九四八 二八〇、八二〇 二五一、一六五	二一、六四八 一九、六五九 一六、五七二
草煙葉	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年	四五四・〇 四八八・八 五九六・〇	七三三、九六八 一、〇六八、五三一 九三三、九〇八	四三二、六三三 八七五、二一四 七〇〇、八三二
苡苳 (屬七)	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年	二七・四 二四・〇 一八・二	三八、二四三 二五、九六三 三四、一〇五	一九、八一三 一七、七九九 一八、八九〇
極三	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年	六〇・四 六四・五 五七・七	二八、九七一 三〇、九八七 二八、七二五	一九、九四三 二七、七七八 二八、三〇九
麻胡	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年	三七〇・〇 四〇〇・一 三五〇・一	二二〇 二四三 二二七	八、二九九 九、七八五 九、八八三
其ノ他	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年			

三 工藝農産物

品名	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年	作付段別	收穫高	價額
麻黃	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年	二〇・四 一六・二 一八・一	七、二九〇 五、八六一 五、五八七	三、六七五 三、五二五 五、二三一
種菜	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年	四九八・三 五、八四三・六 六、八七七・七	四四、三四五 五九、四二〇 五九、六六六	八四四、三八七 一、三三七、九八〇 一、二五五、二二三
數總	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年			
根蓮	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年	一三・六 一〇・九 一一・四	三三、〇三〇 二七、三七〇 二六、九五二	七、九八四 七、五三二 七、八三二
菜漬	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年	四六〇・三 四六四・四 四五九・二	一、八三七、〇五一 一、八二〇、三三七 一、八二五、三四三	四三三、一四四 一九三、四〇〇 一八八、三七四
蘭 (其價備ノ他)	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年	二・八 二・二 三・三	四、六四〇 三、六五五 五、二四五	三、二五六 二、八三七 三、一七五
麻大	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年	一八三・四 一八一・〇 一八一・九	三六、一五二 三九、六六二 四〇、五七三	四〇〇、四六四 四四、四六六 七三、四三四
麻苧	昭和一十一年	昭和一十二年	昭和一十三年	三一九・六 三二七・五 三九六・二	六七、九四六 一〇〇、九五三 一三七、四二一	二二、一一〇 二〇、九六九 四四〇、二六一

(農業)

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

生産戸數	九五四	七六五	一一九九
總數	五、四三四	五、四四二	五、四八七
數量	八七、七九七	九二、〇三二	九三、九一三
價額	五、四三四	五、四四二	五、四八七
接木	八七、七九七	九二、〇三二	九三、九一三
代出	三五〇	〇	〇
其他	〇	〇	〇
價額	四六〇	〇	〇

三九 桑 苗

(自前年六月  
至其年五月)

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

數量	一一、八三三	九、八六四	一〇、四五〇
價額	一、六一七	一、二五五	一、二二六
數量	三〇、五八一	三四、一〇九	二二、六〇八
價額	五、二〇九	五、七二八	四、五〇一
數量	九〇三	八七五	二、三九九
價額	八八	七四	二〇
數量	三〇、二八〇	一五、七四四	一一、二二二
價額	一、九四三	一、二二三	一、四七三

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

數量	七七一	四八七	五四六
價額	七五、〇六一	七一、四四七	六一、四八八
數量	一〇、四八二	九、五〇七	九、一三三
價額	四、二二九	四、一三六	五、六三三
數量	五九三	五一一	七四四
價額	五九三	五一一	七四四
數量	七、二三五	六、七五九	七、一八五
價額	一、〇三二	八二六	九六三

三七 農産製造物

七八

粉莢蒟 干切根大 數總  
昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

數量	二、〇一一	一、八五〇	一、二七九
價額	一、〇三六	〇、六二三	〇、五九九
數量	三、〇二五	二、九三四	一、九一七
價額	一、五八〇	一、五四〇	〇、五四〇
數量	二、五六〇	二、七四四	二、〇〇〇
價額	一、〇三六	一、〇三六	〇、四三五
數量	四、六四〇	四、六五七	四、七二二
價額	四、六四〇	四、六五七	四、七二二
數量	一、〇九一	八五七	八四九
價額	一、〇九一	八五七	八四九

三八 果 樹 苗

(自前年七月  
至其年六月)

生産戸數	〇	〇	〇
總數	〇	〇	〇
數量	〇	〇	〇
價額	〇	〇	〇
桃 苗	〇	〇	〇
梨 苗	〇	〇	〇
價額	〇	〇	〇

四〇 桑畑及茶畑 六月末日現在

昭 和 十 一 年	昭 和 十 二 年	昭 和 十 三 年	桑畑		茶畑	
			總數	見積段別	總數	其他
六、六一四・一	六、五九二・八	二、三〇三	一、七二七・八	五七四・〇	四七二・〇	六七二・八
七、〇七五・五	七、〇一六・八	二、〇六八	一、六六六・七	五六六・一	四三九・五	六六一・一
八、二四五・八	八、一八四・七	六、一〇一	一、五六七・四	五二七・二	三七六・三	六六三・九

四一 綠肥用作物

大青 豆刈 昭 和 十 一 年	英雲 紫 昭 和 十 二 年	數總 昭 和 十 三 年	作付段別		收穫高		價額	
			作付段別	收穫高	價額	作付段別	收穫高	價額
一、三、七二九・〇	一、〇、六四六・〇	三、五〇七・四	二、七、一四九・三	二、七、三六四・七	二、八、七〇〇・八	一、〇、八二二・二	一、〇、八二二・二	九、九六〇・五
一、三、六三〇・七	一、〇、九三五・〇	三、五〇七・四	二、七、一四九・三	二、七、三六四・七	二、八、七〇〇・八	一、〇、八二二・二	一、〇、八二二・二	九、九六〇・五
一、三、六三〇・七	一、〇、九三五・〇	三、五〇七・四	二、七、一四九・三	二、七、三六四・七	二、八、七〇〇・八	一、〇、八二二・二	一、〇、八二二・二	九、九六〇・五

四二 飼料用作物

大青 豆刈 昭 和 十 一 年	英雲 紫 昭 和 十 二 年	數總 昭 和 十 三 年	作付段別		收穫高		價額	
			作付段別	收穫高	價額	作付段別	收穫高	價額
一、三、七二九・〇	一、〇、六四六・〇	三、五〇七・四	二、七、一四九・三	二、七、三六四・七	二、八、七〇〇・八	一、〇、八二二・二	一、〇、八二二・二	九、九六〇・五
一、三、六三〇・七	一、〇、九三五・〇	三、五〇七・四	二、七、一四九・三	二、七、三六四・七	二、八、七〇〇・八	一、〇、八二二・二	一、〇、八二二・二	九、九六〇・五
一、三、六三〇・七	一、〇、九三五・〇	三、五〇七・四	二、七、一四九・三	二、七、三六四・七	二、八、七〇〇・八	一、〇、八二二・二	一、〇、八二二・二	九、九六〇・五

四三 小作爭議ノ一 (件數別)

昭 和 十 一 年	昭 和 十 二 年	昭 和 十 三 年	發生件數		總數		關係者		關係地	
			發生件數	總數	地	主	小作人	總數	地	畑
四、九	三、六	三、八	二、一	二、八	一、三	一、三	一、五	一、〇	一、〇	一、〇
四、九	三、六	三、八	二、一	二、八	一、三	一、三	一、五	一、〇	一、〇	一、〇
四、九	三、六	三、八	二、一	二、八	一、三	一、三	一、五	一、〇	一、〇	一、〇

(農業)

四 小作爭議ノ二 (原因別)

昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	總件數	四三六
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	小作爭議ノ二	〇五一
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	土地引上	五三四
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	地主ノ不信	二四六
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	新地主ノ土地引上	一四七四
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	小作ノ上ノ料	一
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	其ノ他	〇六三

四 小作爭議ノ三 (調停者別)

昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	總件數	四三六
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	調停委員會	二〇三
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	裁判所及小作官ニヨル調停	一一
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	小作官法外調停	二二四
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	當時者ノ示談解決	二二二

四六 小作爭議ノ四 (調停結果別)

昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	受理件數	四三六
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	地主申立者	二四
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	小作人	一一
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	小作繼續	九二四
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	土地返還	二二
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	小作料請求	二二
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	作物賠償	二五

昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	減小作料	三
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	土地賣却	三三
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	對小作料値上反	二八九
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	小作繼續又ハ土地賣却	一一
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	小作料減額及小作繼續	一一

昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	結果既決	二九
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	田	二八・五
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	畑	一五二・六
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	宅地	三六〇
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	地主	九二
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	小作人	三二四
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	支離料	二
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	其他	一一

四七 勸業費豫算

昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	總額	二、六六四、五五四
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	農業	五〇七、五三五
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	蠶絲業	二六七、七六二
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	畜産業	一四〇、七五七
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	山林業	五七八、五四〇
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	水産業	九〇、九七八
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	商工業	九六、三五七
昭昭和十一年	昭昭和十二年	昭昭和十三年	其ノ他	九八二、六二五

(農業)

露光量違いの為重複撮影

蠶

業

收繭壹百八萬貫

生絲八百十三萬圓

延部宮	西東兒東	西北南宮	總		
岡城崎	白白湯	諸諸那	崎		
市市市	郡郡郡郡	郡郡郡郡	數		
四〇、三二〇	三六八、一三〇	三九四、九九五	三、九九二、九九〇	融資額	円
一、二四、四一〇	八一七、一〇〇	四一七、八三〇	一、二四六、〇〇〇	田	創設
二九、四三〇	五六八、四六〇	三九四、九九五	五、五七、四〇〇	畑	面
一、二〇、〇〇〇	九三、七五〇	九三、七五〇	二、八、五〇〇	田	維持
三、四、二〇〇	一、七、七〇〇	一、七、七〇〇	一、四、五、六〇〇	畑	積
二、四、〇〇〇	一、四、三、五〇〇	八、四、九〇〇	五、一、六、二〇〇	總數	創設
一、五、三〇〇	一、四、〇、八〇〇	二、六、八〇〇	四、二、八、二〇〇	人員	維持
一、〇、五〇〇	二、三、四、〇〇〇	三、六、八〇〇	八、八、〇〇〇		
一、三、四〇〇	一、〇、六、三〇〇	五、三、九〇〇	三、七、四〇〇		
六、四、一〇〇	五、六、七、九〇〇	五、三、九〇〇	四、七、一〇〇		
五、一、三〇〇	四、五、七、四〇〇	四、〇、一〇〇	三、七、三〇〇		
九、二、五〇〇	一、〇、五、〇〇〇	一、二、八、六〇〇	一、五、七、六〇〇		

四八 自作農創設維持資金 (自大正十一年度至昭和十三年度)





## 概 説

### 蠶 種

本縣の氣候風土は蠶の飼育に適するを以て本縣に生産する蠶種が品質優良強健無比の稱あるは蓋し偶然にあらず、殊に多年の経験と本縣氣候の巧妙なる利用とに依りて生産せらるる夏秋期製造春蠶種は最も新しき品種を採用し得る點に於て又蟲質の強健なる點に於ては他府縣の追隨を許さない。而して其の製造高は例年數百萬瓦を超へ、殊に本年に於ける製造高は六、九〇四、三五四瓦に達し獨り縣内の需用を充すのみならず他府縣の製絲業者に競つて歡迎せられ稱讃を博して居る。尙縣南海岸地方に於ては四月一日原蠶種を掃立五月二十日前後蠶種製造をなし得るを以て其の年東北地方春蠶の掃立に充當し得るの天恵がある。而して本年に於ける製造状況を觀るに

製 造 者 數	三二月	前年に比し	二〇戸	減
製造(検査合格高)	六、九〇四、三五四瓦	同	一四一、九七二瓦(二分)	増
價 額	一、三七一、七六四圓	同	二八、八二四圓(二分)	増

にして最近十箇年間に於ける趨勢を觀るに製造者數は逐年減少の傾向を辿り製造高は昭和十年迄は逐年増加の趨勢を示してゐる。

### 養蠶戸數

昭和十三年中に於ける養蠶戸數は	三〇、四六三戸	前年に比し	三、二九七戸(一割)	減
-----------------	---------	-------	------------	---

(蠶 絲)

夏秋蠶 二九、〇八四戸 同 五、二四〇月(一割五分)減  
 實戸數 三〇、七五八戸 同 四、三五六戸(一分)減

にして最近十箇年間に於ける趨勢を觀るに昭和五年迄は漸増の傾向にありしも昭和六年以後は之を反對の現象を示し漸減の傾向がある蓋し右は主として小規模養蠶家の減少した結果であらう。

蠶種播立數量 昭和十三年中に於ける蠶種播立數量は

總數 一、四八五、九三五瓦 前年に比し 一一三、四三六瓦(七分)減  
 春蠶 六一九、八二八瓦 同 四七、五四四瓦(七分)減  
 夏秋蠶 八六六、一〇七瓦 同 六五、八九二瓦(七分)減

にして其の最近十箇年間に於ける趨勢は昭和五年以降漸減の傾向を示して居る。

繭産額 昭和十三年中に於ける繭産額は

總數 一、〇八三、三四五貫 前年に比し 一五六、八六七貫(一割三分)減  
 春蠶 五、四九二、九一六圓 同 七二三、四四五圓(一割)減  
 夏秋蠶 三、〇七五、四二四圓 同 二二八、二六六貫(一割九分)減  
 夏秋蠶 三、〇七五、四二四圓 同 二二八、二六六貫(一割九分)減

である。蓋し本年蠶兒發育の狀況は

春蠶の五月末日現在の豫想收繭高は五〇二、〇五〇貫にして前年の實收高に比し四八、八二八貫(九分)の減收を豫想されたるも其の後氣候順調に進み且蠶兒の發育良好なりし爲め實收の結果は五二二、二七七貫となり之を前年の收繭高と比較するときは二八、六〇一貫(五分)の減少を示した。その原因は主として桑園の整理改植と播立數量の減少した爲めである。されど價額に於ては絲價の低落により却て前年に比し七二三、四四五(二割三分)の減少を示した。  
 夏秋蠶は九月二十五日現在に於ける豫想收繭高六〇六、〇六〇貫にして前年の實收高に比し八三、二七四貫(一割二分)の減收を豫想されたが實收の結果は五六一、〇六八貫にして前年の收繭高に比し一二八、二六六貫の減收を示すに至つた。尙價額は絲價の活況により前年に比し一一八、六三八圓の増加となつてゐる。

製絲業 昭和十三年中に於ける製絲業は

製絲場數 一六二 前年に比し 一〇月(六分)増  
 繰絲釜數 二、四〇八 同 一一二月(四分)減  
 職工數 男 二、三三七 同 二〇〇人(八分)減  
 女 三、四九四 同 一三〇人(四分)増

蠶絲類産額

總價額 八、一三二、七一八圓 前年に比し 一八七、二一八圓(二分)増  
 眞綿 昭和十三年中に於ける製造場數は一四にして前年に比し二月を増加し生産數量は三五九貫にして前

(蠶絲)

年に比し五八三貫、價額は一五、八〇〇圓にして前年に比し一二、三四〇圓の何れも減少を示してある。

四九 蠶種

昭 和 十 一 年	昭 和 十 二 年	昭 和 十 三 年	製 造 戸 數		總 數		原 蠶 種		普 通 蠶 種	
			製 造 高	檢 定 合 格 高	製 造 高	檢 定 合 格 高	製 造 高	檢 定 合 格 高	製 造 高	檢 定 合 格 高
五五	五二	三三	六、九一八	六、七四五	六、九〇四	六、三五四	二三五、六六〇	二二七、七三九	六、六八三	六、〇八五
六、七三三	六、七三三	六、七三三	六、七三三	六、七三三	六、七三三	六、七三三	一七九、六九一	一七九、六九一	六、五八二	六、九〇七
六、九三二	六、九三二	六、九三二	六、八六〇	六、九三一	六、八六〇	六、九三一	二五三、〇九七	二五三、〇九七	六、六二一	六、八六九
六、八六〇	六、八六〇	六、八六〇	六、八六〇	六、八六〇	六、八六〇	六、八六〇	六、八六〇	六、八六〇	六、八六〇	六、八六〇

五〇 養蠶戸數

昭 和 十 一 年	昭 和 十 二 年	昭 和 十 三 年	春 蠶 戸 數		夏 秋 蠶 實 戸 數		總 數		蠶 種 持 立 數 量	
			春 蠶	夏 秋 蠶	春 蠶	夏 秋 蠶	春 蠶	夏 秋 蠶	春 蠶	夏 秋 蠶
三三、四六三	三三、七六〇	三三、九〇九	二九、〇八四	三四、三三四	三〇、七五八	三五、一四一	一、四八五	九三三	六一九	八二八
三六、九〇九	三六、二〇一	三六、二〇一	三六、二〇一	三六、二〇一	三六、二〇一	三六、二〇一	一、五九九	三七一	六六七	三七二
三六、二〇一	三六、二〇一	三六、二〇一	三六、二〇一	三六、二〇一	三六、二〇一	三六、二〇一	一、七二六	〇三六	七五三	五五一
三六、二〇一	三六、二〇一	三六、二〇一	三六、二〇一	三六、二〇一	三六、二〇一	三六、二〇一	一、七二六	〇三六	七五三	五五一

(蠶絲)

五一 繭產額

總數	收繭高			繭	價額
	上繭	玉繭	屑繭		
昭和十三年	一,〇八三,三四五	九五四,五一	七八,二五九	五〇,五七五	五,四九二,九一六
昭和十二年	一,二四〇,二二二	一,一〇九,四九〇	七三,三二六	五八,四〇六	六,〇九七,七三三
昭和十一年	一,三〇六,五三二	一,一六五,〇九二	七六,八一七	六四,六五三	六,一八一,八九二
春蠶	五三二,二七七	四六一,四三〇	三八,二七六	二二,五八一	二,四一七,五〇四
昭和十三年	五五〇,八七八	五〇〇,九〇六	二八,一八六	二一,七八六	三,一四〇,九四九
昭和十二年	六二二,七七七	五六〇,五二八	二六,二八六	二五,九六三	二,九七四,八一七
夏蠶	五六一,〇六八	四九三,〇九一	三九,九八三	二七,九九四	三,〇七五,四二二
昭和十三年	六八九,三三四	六〇八,五八四	四四,一三〇	三六,六二〇	二,九五六,七七四
昭和十二年	六九三,七八五	六〇四,五六四	五〇,五三一	三八,六九〇	三,二〇七,〇七五

五二 蠶絲類及真綿

生絲(屑物ヲ含ム)總價額	數量	總價額	數量	白生絲價額
昭和十二年	七,九四五,五〇〇	一五六,〇一五	七,六二五,二九一	六,八〇六,四九四
昭和十一年	七,九三一,七七七	一六七,二七三	七,六八四,二七〇	七,二〇〇,一八〇

(蠶絲)

生絲	黃絲	總數	屑物	鬚斗絲
昭和十三年	九,三九二	二六三,四九三	四六一,八八七	七〇六
昭和十二年	一六,三八一	八一八,七九七	三三〇,三〇九	九四四
昭和十一年	九,六〇二	四〇四,〇九〇	二四七,五二七	八〇〇

畜産業

駒は日向の誇りの一つ  
牛が四萬八千頭

昭和  
和和  
十十  
一二三  
年年年

昭 和 十 一 二 三 年	生皮		層	物		其 他	製 造 場 數	眞	綿
	數 量	價 額		數 量	價 額				
一 五 、 一 八	一 七 、 八 七	一 八 四 、 〇 五 一	二 九 三 、 七 六 〇	三 五 、 〇 五 七	一 六 七 、 四 二 一	一 三 、 二 四	三 五 九	一 五 、 八 〇 〇	
一 五 、 一 八	一 七 、 八 七	一 八 四 、 〇 五 一	二 九 三 、 七 六 〇	三 五 、 〇 五 七	一 六 七 、 四 二 一	一 三 、 二 四	三 五 九	一 五 、 八 〇 〇	
一 五 、 一 八	一 七 、 八 七	一 八 四 、 〇 五 一	二 九 三 、 七 六 〇	三 五 、 〇 五 七	一 六 七 、 四 二 一	一 三 、 二 四	三 五 九	一 五 、 八 〇 〇	

露光量違いの為重複撮影

畜産業

駒は日向の誇りの一つ  
牛が四萬八千頭

昭昭和 和和和 十十十 一二年三 年年年	数量	價額	数量	價額	製造場數	数量	價額
	一七、八二七 一四、一八九 一五、二一八	二九三、七六〇 一八四、〇五一 一八〇、一〇四	三五、〇五七 三二、九七五 三五、九八二	一六七、四二一 一三五、二二四 六六、六一三	一一四 一一二	三五九 九四三 五三七	一五、八〇〇 二八、一四〇 一八、一六六
	生皮 屠		其ノ他		真綿		

## 概 説

### 總 説

九州の驥足を以て其の名を謳はるゝ本縣は往古より各代の爲政者何れも畜産殊に産馬の奨励に努め縣民亦よく其の意を體し所謂官民一致斯業に精勵したるを廣袤五百餘方里の縣内には實に數萬町歩の牧野を包含し加之氣候温暖にして雨量亦多きを以て草生豊富眞に天地の利と人の和とを得たる本邦有數の畜産國として當路者は固より汎く一般の認むる所となつた。

### 馬

産馬は前述の如く本縣畜産の王座にして古く藩制時代に於て藩牧の制を設け蕃殖に又乘馬に各藩主銳意馬事の奨励に力を致し明治中葉に至りては各郡に畜産組合の設立を見各競うて優良馬の産に努めつゝあるので、これが爲め各郡共各特色を發揮し益々斯業の隆盛を期しつゝある。殊に昭和八年十月競馬法實施十周年記念全國馬匹博覽會に於ける本縣よりの出品馬は何れも入賞し更に本縣産馬の名聲を博するに至つた。

馬匹は中間種なるアンゲロノルマン種系とアンゲロアラブの如き輕種系馬とにしてこれよりの産駒は従來九州各縣、四國に顧客を有し移出先に於て育成せられて軍馬となるもの實に全九州に於ける陸軍購買馬の約五割に達し今やその供給源としては實に國家的であるばかりでなく其の他競馬場裡に於ても秀れたる能力は北海道、青森縣産アラブ系馬と共に全國屈指の成績を示し輒近畿關東地方に役馬若くは蕃殖基礎馬として移出せられ又本縣産馬の市價は優に東北地方のそれを凌駕するに

(家畜及家禽)

牛

至つた。而して之が産地としては西諸縣、北諸縣、南那珂、兒湯の各郡を主とし其の他宮崎、東諸縣、西臼杵の各郡亦相當の生産がある。

畜牛の改良は明治の初年に初まり其の後幾多の變遷があつたが、役肉用牛の需要増加に鑑み、黒毛改良和種の生産を期し血種及體型の固定に努め居る結果資質年々共に向上し、而して本年に於ける飼養戸數は三四、七一四戸で前年に比し二、九〇五戸を増加し飼養頭數は四七、五五一頭で前年に比し三、七二六頭を増加した。従つて生産頭數も逐年増加し本年の如きは實に一二、八〇七頭に達し前年に比し九六三頭の増加を示した。而も性質温良、肉質可良なるため常業者に歡迎せられその大半は大分、愛媛、徳島、大阪、愛知、和歌山、鹿兒島等の地方へ移出せられてゐる。主たる産地としては西臼杵、兒湯、東臼杵、西諸縣、北諸縣の各郡及延岡市である。

牛乳

昭和十三年末に於ける搾乳場數は五二戸、乳牛頭數三一五頭で之が搾乳高は二、七四〇石にして前年に比し一五七石を減少し、價額は一六二、九八五圓にして前年に比し五、〇一一圓の増加を示してゐる。

豚

豚は農漁村の副業として飼養せられるもの多く本年末現在に於ける飼養戸數は六、九五二戸にして前年に比し一、〇三六戸を減少し飼養頭數は一三、一三一頭にして前年に比し一、四八四頭の増加を示してゐる。尙都城に産する「ハム」は中流以上の家庭向として名聲を博し今や滿洲國方面へもその輸出を見るに至つた。飼養の盛なる地方は南那珂、東臼杵及兒湯、北諸縣の地方である。

綿羊及山羊

昭和十三年末現在に於ける綿羊飼養戸數は五七戸にして前年に比し一〇三戸を減少し飼養頭數

は三三六頭に於て前年に比し二七八頭を減少した。種類は採毛専用種たるメリノ種を主とし只僅かに毛肉兼用種コリテール種がある。尙これ飼育は大正八年頃に始まり現在に於ては西諸縣郡の一八〇頭、南那珂郡の六九頭、兒湯郡の三二頭、北諸縣郡の二二頭を主なる飼育地として各地に漸次増加の傾向に在る。縣では益々飼養技術の鍊磨と羊毛加工の家庭化を奨励し綿羊飼養經濟の向上を計つてゐる。

山羊の同年末現在に於ける飼養戸數は五二〇戸にして前年に比し五四戸を増加し飼養頭數は九四八頭で前年に比し二〇頭を増加し逐年増加の傾向を示してゐる。

家禽

本縣家禽の飼養状況は先づ之れを鶏に付き觀るに十羽未満に於て六三八戸、十羽以上五十羽未満に於て七六九戸、百羽以上に於て四〇戸を減少するも五十羽以上百羽未満に於ては一一九戸を増加した。尙飼養羽數が前年に比し減少したのは飼養戸數の減少に伴ふ自然の現象と見なければならぬ。之を要するに本縣の養禽事業の現況は驚、驚、吐綬鶏にありては逐年減少の歩調を辿りつゝあるが鶏に於ては逐年旺盛に趣きつゝあることを示してゐる、然れども之を本邦に於ける養鶏先進地たる千葉、愛知等の諸縣に比すれば尙及ばざること遠く、されど養鶏は本縣に於ける主要産業であり勞々卵肉の需用は益々夥多を加へ殊に本縣は土地廣潤氣候亦適順天恵の好適地なるを以て縣は之が飼養増殖を圖る爲め養鶏生産物の共同販賣を主たる目的とする養鶏組合の設立を必要とし昭和元年以降獎勵金を交付して組合の設立を促進し又既設組合に對しても獎勵金を交付して組合の堅實なる發達を期し以て大いに之が増殖を圖りつゝある。

(家畜及家禽)





(家畜及家禽)

牧場名	所在地	創立年月	面積	牛	馬	役夫延人員
牛三原一放牧場	全北諸縣郡西嶽上村	昭和九年六月	二〇〇〇	二	???	三〇
荒川池放牧場	全北諸縣郡中股村	昭和八年七月	二〇〇〇	四	???	三
石原放牧場	全北諸縣郡細田村	昭和七年四月	二〇〇〇	三	???	三
瀧ヶ平放牧場	全北諸縣郡細田村	昭和七年四月	四〇〇〇	三	???	三
木代放牧場	全北諸縣郡細田村	昭和七年四月	三〇〇〇	三	???	三
初田放牧場	全北諸縣郡細田村	昭和七年四月	二〇〇〇	三	???	三
葛木久見放牧場	全北諸縣郡細田村	昭和九年五月	一九〇〇	三	???	三
高松氏放牧場	全北諸縣郡細田村	昭和十四年三月	七二〇〇	六	???	六
一松氏放牧場	全北諸縣郡細田村	昭和十四年三月	七二〇〇	六	???	六
大重野放牧場	全北諸縣郡細田村	昭和十四年三月	七二〇〇	六	???	六
前平放牧場	全北諸縣郡細田村	昭和十四年三月	七二〇〇	六	???	六
庵屋放牧場	全北諸縣郡細田村	昭和十四年三月	七二〇〇	六	???	六

九九

五四 牧場

昭昭和昭昭昭	昭和昭和昭和昭和昭和	總額	產	家	吐綬	肉製品
昭和九年	昭和十年	昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	昭和十四年	昭和十五年
一、〇一九、六八八	一、〇九一、九三〇	一、二四七、〇三〇	一、四八五、三六八	一、二七一、六〇五	一、四八五、三六八	一、二七一、六〇五
三、四二一	四、五八五	五、四二〇	四、一三六	四、一三六	四、一三六	四、一三六
九〇九	八八九	八七三	八七三	八七三	八七三	八七三
九四〇	一、四九六	一、〇四四	一、〇四四	一、〇四四	一、〇四四	一、〇四四
四〇、一七三	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九
四〇、一七三	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九
四〇、一七三	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九
四〇、一七三	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九
四〇、一七三	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九	三三、三三九

九八



(家畜及家禽)

畜家畜

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

總數 試驗及第 官立學校卒業 縣立學校卒業 獸醫師 認可私立學校卒業 陸軍蹄鐵術卒業  
二二七 三三三 一一一 二四二 二二 二二 五七七 一八六

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

總數 試驗及第 官立學校卒業 縣立學校卒業 認可私立學校卒業  
一三〇 三九四 八元六 一一一 三三三 二二六 一四

獸醫師及蹄鐵工

獸醫師

認可私立學校卒業

牧場名	所在地	創立年月	面積	牛	馬	役夫延人員
俵野牧場	東白杵郡北川村	昭和十年二月	二〇〇町	二〇五頭	一頭	六七
飯干牧場	西白杵郡諸塚村	昭和八年七月	一五〇町	二〇五頭	一頭	三五
七上山牧場	上	昭和十年五月	三〇〇町	一五〇頭	一頭	二二
小原井牧場	全	昭和十二年十二月	五〇〇町	一五〇頭	一頭	三三
高千穂牧場	西白杵郡高千穂町	昭和十二年五月	五〇〇町	一五〇頭	一頭	一八
向山野牧場	全	昭和十二年四月	六〇〇町	一五〇頭	一頭	三一
古枝尾牧場	郡鞍岡村	昭和十一年三月	五〇〇町	一五〇頭	一頭	二六
古賀牧場	郡鞍岡村	昭和十二年一月	四〇〇町	一五〇頭	一頭	二九
祖母嶽牧場	郡田原村	昭和十二年六月	二〇〇町	一五〇頭	一頭	三五
宮之上牧場	全	昭和九年六月	一五〇町	一五〇頭	一頭	二四
神原牧場	全	昭和九年六月	一五〇町	一五〇頭	一頭	二四
菅野牧場	全	昭和十年一月	二〇〇町	一五〇頭	一頭	二四
嶽放牧場	全	昭和十年一月	二〇〇町	一五〇頭	一頭	二四

(家畜及家禽)

飼養戸數	成禽		雛		既往一年間 産卵價額
	羽數	價額	羽數	價額	
鷄	昭和十一年 五九、八五九	三九二、四九三	四五二、二三七	二二一、二六三	一、四七八、七三六
鷄	昭和十二年 六一、一八七	三九〇、八〇七	四九三、三六五	一六八、三八六	一、二六五、五七〇
鷄	昭和十三年 六〇、九四四	三七二、七〇九	四二八、九七三	一三九、七三八	一、一三八、六四七
鷺	昭和十一年 六〇五	一、六五四	一、八七二	六三四	四、三二六
鷺	昭和十二年 六二六	一、六六八	一、四九〇	四五六	四、一一九
鷺	昭和十三年 六五〇	二、一〇三	一、二二二	三三六	五、四三〇
鷺	昭和十一年 二六五	三九六	一〇四	六〇	一、〇六八
鷺	昭和十二年 二〇五	三九六	六五	五三	六八七
鷺	昭和十三年 二八四	三八〇	四三	二六	六八七
鷺	昭和十一年 一五〇	二八一	一六四	一五八	一、六一九
鷺	昭和十二年 一〇七	二九〇	一八一	一七四	一、〇四四
鷺	昭和十三年 一五〇	四一七	二七七	二四五	一、八九五

一〇五

五七 家

禽

牛、緬羊及山羊ハ滿一年未滿、豚ハ滿十ヶ月未滿ノモノ、各年末現在數ニ對スル價額ナリ

飼養戸數	總數		年未現在		年內移動		價額
	總數	價額	總數	價額	生産	斃死	
牛	昭和十一年 三四、七四四	四七、五五一	三七、三三五	一〇、二二六	一三、八〇七	四六三	一、〇五七、六九六
牛	昭和十二年 三一、八〇九	四三、八二五	三四、一一二	九、七〇四	一一、八四四	三九九	七五〇、七五四
牛	昭和十三年 二九、九六〇	四〇、四一四	三〇、五八二	九、八三二	一〇、八八九	四三四	六七二、一一〇
豚	昭和十一年 六、九五二	一三、一三一	八、三四九	四、七八二	一七、四一〇	一一、六四四	三二四、七三七
豚	昭和十二年 五、九一六	一一、六四七	七、六六〇	三、九八七	一一、一〇八	一一、九二五	一七四、三一五
豚	昭和十三年 六、八一九	一二、八〇四	八、五九三	四、二一一	一一、六七四	一、四五〇	一四三、二一九
羊緬	昭和十一年 一六〇	三三六	二九六	四〇	四九	三三	八〇三
羊緬	昭和十二年 一七〇	六一四	一五三	八三	四九	二二	五三四
羊緬	昭和十三年 七五	二四七	一七五	七二	六九	〇	七八一
羊山	昭和十一年 五二〇	九四八	七九五	一五三	三四四	九〇	三、四九二
羊山	昭和十二年 四六六	九二八	七五七	一七一	四〇五	六三	三、六〇五
羊山	昭和十三年 三五五	七六三	六三五	一二八	二二六	五六	一、五八二

一〇四

昭昭昭  
和和和  
十十十  
一二年三  
年年年

(家畜及家禽)

改良和種	種	洋種	雜種	洋種	改良和種	種	洋種	雜種	洋種
二〇四	三二六	八五五	五〇〇	八七三	五三〇	一〇〇	一〇〇	八三	五二
種牡牛馬					候補種牛馬				
					? ?				

六二

候補種畜

(頭數)

昭昭昭  
和和和  
十十十  
一二年三  
年年年

飼養戶數	箱數	數量	價額	數量	價額
一、七四五	六、三五五	一八、七九八	四〇、三二六	九、四五	二七、四
一、八四二	六、六七九	一九、五七九	三六、七三〇	四、三	二〇、〇
一、九二三	六、六九六	一七、九九三	三三、〇八三	九、三	二〇、〇
年末現在			蜂		
			蜜		
			蠟		

六〇

蜜

蜂

蜂

蜜

蜜

蠟

昭昭昭  
和和和  
十十十  
一二年三  
年年年

年末現在  
搾乳場數

年末現在  
乳牛頭數

搾乳高

價額

羊及豚 馬 牛  
昭昭昭 昭昭昭 昭昭昭  
和和和 和和和 和和和  
十十十 十十十 十十十  
一三三 一二三 一二三  
年年年 年年年 年年年

五九

牛

乳

頭數

肉量

價額

五八

屠

殺

一〇六



林

業

産額用材一千八百萬(圓)

木炭五百萬(圓)

椎茸九十七萬圓

共に日向の主産物



## 概 説

### 森林分布

本縣は氣温風土最も樹木の生育に適し植物帶上樞帶より掬帶に互り林相甚だ複雑にして劃然たる區分をなすことは出来ないが其の主たる林木により分布の狀況を區分するときは海岸部は海濱砂地の松林を除けば櫟、椎、楠の常綠闊葉樹林にして之より西北山岳地帯は檜、櫟、栗、櫻、楓、楓、楓、楓等の落葉闊葉樹に櫟、樺、赤松等混生し縣界の山頂は山毛櫸、檜、楓を以て覆はれ林相密にして斧鉞を加へざる箇所が頗る多い。而して森林の狀況は南那珂郡地方の杉の人工造林地を除くの外は大體に於て海岸部、中央部、山間部に區別することが出来る。

**海岸部** は一般に交通至便人口亦稠密であるので勢ひ濫伐が多く従つて暖帶固有の樹種たる檜、椎、樟等の常綠闊葉樹は殆んど其の跡を斷ち只社寺境内及屋敷林等に其の餘を存するだけである、他は悉く劣等雜木若くは黒松林にして原野亦此地方に最も多い。青島は宮崎市を距る南方四里四方海に圍まるゝ周圍約半里の小島にして全島熱帶植物を以て覆はれ就中「ピロウ」の鬱蒼として繁茂せる等は純然たる熱帶林を形成してゐる、如斯は他に其の比を見ない所であつて實に天下の奇觀である

**中央部** は海岸部に比するに、濫伐の度が尠く檜、椎、楠其の他の常綠闊葉樹林も多いけれども之等樹種は火と斧との爲に逐年減少し之に代るに抵抗力の強き赤松、檜の繁茂する所甚だ多く本縣主要物産たる木炭、椎茸は主として此の中央部に産してゐる。

(林業)

山間部 は西、北部縣界一帯の交通不便なる地方で海拔一千尺乃至五千尺に及び檜帯より山毛櫸帯に移らんとする接續地點にして檜類は既に寒氣の爲め獨立生育することが出來ず椴、榊の保護の下に生存し山頂は山毛櫸、檜、楓が殆んど占めてゐる。

造林施設

(イ) 諸縣縣有林 本林は森林經營の模範を示し且縣基本財産造成の目的を以て明治三十五年諸縣御料林の全面積二、四七三町步餘並之に附隨する立木建物一切價額八萬二千五百九十五圓を十ヶ年賦にて購入し地勢其の他の關係上縣有林として經營に不便なる地は縣立宮崎農學校演習林其他の公共團體に拂下げ要存置面積一、九五〇町步餘に對し特別會計を以て經營してゐる。

(ロ) 恩賜慈惠救濟基本林 明治天皇並昭憲皇太后の御大喪に際し慈惠救濟の思召を以て内帑の資を全國に下し賜ひ本縣亦其慈命を拜したので其一半六千四百圓を以て基本林を造成し後世子孫をして永く其の惠澤に浴せしむる爲め内金五千六百十四圓七十六錢六厘を以て二回に互り國有林の拂下を受け設置せるもので大正十年度を以て新植事業を完了し専ら保護撫育に努めてゐる。

(ハ) 椎葉縣有林 秩序的林業經營の模範を示し併て所在地方林野開發に資せんが爲め大正六年十二月椎葉村をして一、〇二五町步餘の林野を提供せしめ村と分收の方法を探り設置せるものにして大正七年以降三十ヶ年を以て植栽完了の豫定である。

林野面積 毎三年調査に依る昭和十一年末現在に於ける林野總面積は五六九、二四八町二段步にして之を前回調査の昭和八年末に比すれば五九、一一九町四段步の増加を示してゐる。而して之を所有別に觀

るに國有一六八、四三〇町六段步(三割)、公有六七、三三九町四段步(一割二分)、社寺有一、〇七九町一段步(〇)、私有三三二、三九九町一段步(五割八分)の割合となつてゐる。

保安林 昭和十三年三月末日現在に於ける保安林は一二五箇所、面積二、六九七町七段步にして前年に比し九段步の減少である。

林産物 昭和十三年に於ける林産物總價額は三〇、一二二、五五四圓にして本縣總産額の一割五分を占め、前年に比し三、九五〇、六九〇圓(一割六分)の増加を示してゐる。

本縣林産物中特筆すべきは鉄肥杉と木炭、椎茸これである、鉄肥杉は建築材としては勿論であるが殊に艦船材としては他にその類を見ない特質を有し、又木炭は縣下到處優良炭材に富み炭質堅密にして火力強きを以て日向炭として全國に賞揚せられ、椎茸は本縣特産品の一にして其の生産額も全國第一位を占め品質良好なるを以て日向椎茸として各地に名聲を博してゐる。

畜林產物

(累年比較)

昭和十一年

總價額	三〇,一三,五五四 二六,一七,八六四 一八,七五四〇七
總數量	二,一六,三六五 二,二五,二二五 二,〇〇六,六二一
丸材及角材	一〇,七六一,三三一 九,八六八,六四八 六,五七一,八九五
松材	六三五,九七一 五三九,三九四 四一九,三六五
總價額	二,六七八,二八五 二,〇二八,五二五 一,一〇四,七七二

昭和十二年

杉材	數量 一,一七八,三八三 一,二九五,九五〇 一,〇九五,四七一	價額	六,三七八,三九五 六,二一一,七五四 三,四八三,二八八
樟材及角材	數量 四,二三三 五,七五七 一〇,八二〇	價額	一三,七六二 一五,六六四 七六二,五三二
檉材	數量 八,六〇〇 八,三三三 七,九八四	價額	六六,二三六 八二,七五二 五八,六七五

(林業)

(林業)

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

數	六〇、七四	價	一三、四八三
量	七〇、三九〇	額	一、三九八
坪	五六、二〇四	額	七三、三八〇

數	一、二〇〇	價	二、四〇〇
量	一、〇〇〇	額	一、五〇〇
坪	一、五〇〇	額	一、五〇〇

一一七

數	一、三〇〇	價	一、四一五
量	一、三〇〇	額	一、四一五
坪	一、三〇〇	額	一、四一五

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

數	四、二四〇	價	一九、四三二
量	五、二六九	額	二〇、〇四八
坪	二、〇七六	額	二八、三三七

數	四、九四〇	價	一五、四〇四
量	四、三七〇	額	九、九八〇
坪	四、〇四〇	額	九、二〇三

數	五、〇六四	價	一、六五、一八〇
量	六、八三六	額	一、三九三、〇二二
坪	六、六三六	額	九七三、〇六一

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

數	三、五四三	價	七、二六七
量	三、三九一	額	五、四六九
坪	二、八五五	額	三、七〇二

數	六、三八一	價	一、三〇四
量	五、九八三	額	九〇八、九一九
坪	四、三七二	額	五九八、八三七

數	一、六七八	價	三、六四六
量	一、四一九	額	二、三六六
坪	一、一八七	額	一、四三六

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

數	一、五〇〇	價	二、五〇〇
量	一、五〇〇	額	一、五〇〇
坪	一、三〇〇	額	二、四〇〇

數	一、八一	價	三、二二七
量	一、六三三	額	一、三二七
坪	一、三三五	額	二、五五五

數	九、三六四	價	三、三六八
量	一、七〇七	額	二、六八〇
坪	一、四六三	額	二、四一五

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

數	三、二〇五	價	二〇九、六五一
量	七〇、八五五	額	二六九、一八四
坪	四三、七九〇	額	一四〇、九一三

數	一、四二七	價	五〇、四五五
量	一、五九七	額	三八、五八〇
坪	一、三九五	額	二一、一九一

數	二、三〇一	價	九、九二七
量	一、七七六	額	八、一三二
坪	二、五〇八	額	八、一五六

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

數	一、八一五	價	七三、四三八
量	二、四一八	額	八七、〇三九
坪	二九、〇九二	額	八七、一三八

數	五、四六三	價	三七二、九六二
量	六、六三二	額	三七二、八三八
坪	六、五三二	額	二九三、九三二

數	八、四八二	價	五七五、六四〇
量	一〇、五三七	額	四七一、五三九
坪	一〇、四七五	額	三六三、〇〇九

一一六

(林業)

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

數量 竹皮  
四八、一〇八  
五三、二七四  
三〇、三九七  
價額  
一六、六三一  
一六、九六一  
七、八五四

數量 柴草  
一三三、五八九  
一三九、〇四三  
一三二、九二二  
價額  
二、四〇一  
二、一八〇  
一、四八八

一一九

數量 松茸  
五、二七八  
七、六二七  
四、一五〇  
價額  
二、〇五五  
二、七二五  
四、一三七

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

數量 樹皮  
一三六、三〇八  
一二五、一三一  
一一五、三六三  
價額  
三四、九一二  
二七、一〇四  
二五、三九二

數量 繭皮  
九、八二〇  
九、八二〇  
九、五〇〇  
價額  
一、一五〇  
一、一五〇  
一、九〇〇

數量 棕櫚皮  
四一、五五八  
五七、一八三  
五七、一三五  
價額  
八、一四九  
八、九三六  
七、二八一

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

數量 造林用苗木  
一三、三七三  
九、五五七  
九、四二四  
價額  
二〇一、三九一  
一七、四五九  
一〇三、四一八

數量 造林用種子  
二、四五〇  
二、四五〇  
二、四五〇  
價額  
九四、五一  
九四、五一  
九四、五一

數量 樹實(栗、椿、クルミ)  
四、八六一  
三、三六一  
五、九五〇  
價額  
一〇六、〇七五  
一〇七、一〇一  
一〇八、五四一

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

數量 薪  
九一、五三四  
九〇、二五一  
六〇、七七七  
價額  
二、八三〇  
二、六六〇  
一、四九三

數量 木炭  
一九、一四七  
一九、四七七  
二〇、九二七  
價額  
五、〇三五  
四、二〇六  
三、五九四

數量 竹材  
一八五、二二一  
一七〇、六五八  
一六六、三九五  
價額  
六三、〇七五  
五七、四五六  
五四、〇三一

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

數量 櫓木  
一八、二六四  
四四三  
七六九  
價額  
一九、七三七  
二、七八一  
一、一八四

數量 樽丸  
一九、五六九  
二六、五二二  
九、五〇〇  
價額  
七五、〇六八  
九六、三三三  
三六、九五〇

數量 屋根板  
六八、五九五  
九七、二七七  
七五、三七〇  
價額  
一〇八、四一六  
九九、五三一  
五四、六九七

昭和十一年  
昭和十二年  
昭和十三年

數量 儲下駄齒板  
七四、〇五五  
六五、二〇〇  
一〇七、三四八  
價額  
二二〇、八四三  
一五四、五〇六  
二二二、八八九

數量 其他諸板  
五七四、八一〇  
五四二、五九〇  
三八七、五八八  
價額  
八四九、三二〇  
七三二、〇二六  
四三六、三二〇

數量 其他用材  
一、〇〇〇  
五五〇  
五五〇  
價額  
七、〇〇〇  
五、五〇〇  
五、五〇〇

一二八

昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	椎茸			筍			ワサビ			
			數量	價額	其ノ他	數量	價額	數量	價額	其ノ他		
六四一、六三七	六四一、〇六〇	六四一、〇六〇	九六六、五四一	一、〇七六、一二四	四八〇、一〇三	八五、五七四	四、〇〇三	一、〇七六、一二四	三三、三六六	三三、三六六	三三、三六六	三三、三六六
七六一、三三二	七六一、三三二	七六一、三三二	一、三三三、六五六	一、三三三、六五六	四四二、〇一八	七六、三七四	四、九七七	一、三三三、六五六	三三、四八〇	三三、四八〇	三三、四八〇	三三、四八〇

昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	ワラビ及干センマイ			ツハ及フキ			其ノ他		
			數量	價額	其ノ他	數量	價額	數量	價額	其ノ他	
七三、二九	七三、二九	七三、二九	一七、五五八	一七、五五八	一八五、二六一	一六、九〇二	一四、九六二	一七、五五八	一四、九六二	一四、九六二	一四、九六二
四三、七〇三	四三、七〇三	四三、七〇三	一三、五〇七	一三、五〇七	一五三、四五六	九、五五九	七九、九〇四	一三、五〇七	七九、九〇四	七九、九〇四	七九、九〇四
四三、五九七	四三、五九七	四三、五九七	八、二三四	八、二三四	一四六、七〇一	八、八一六	七六、四九九	八、二三四	七六、四九九	七六、四九九	七六、四九九

空 林野面積 (毎三年調査) 年末現在

昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	總數			國有			公有			社寺有			私有		
			數量	價額	其ノ他	數量	價額	其ノ他	數量	價額	其ノ他	數量	價額	其ノ他	數量	價額	其ノ他
五六九、二四八、二	五六九、二四八、二	五六九、二四八、二	一六八、四三〇、六	一六八、四三〇、六	一、〇七九、一	一、〇七九、一	三三二、三九九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一
四〇九、六六四、八	四〇九、六六四、八	四〇九、六六四、八	一六九、九二七、四	一六九、九二七、四	六三、四五一、〇	六三、四五一、〇	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一	一、〇七九、一

六 國有林野箇所面積 (年末現在)

昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	總數			保安林 (昭和十四年三月三十一日現在)			供用林		
			箇所	面積	其ノ他	箇所	面積	其ノ他	箇所	面積	其ノ他
五、六九八	五、六九八	五、六九八	一七九、二九七、七	一七九、二九七、七	一、二二五	二、六九七、七	四八〇	一、二二五	一、二二五	一、二二五	一、二二五
六、一一一	六、一一一	六、一一一	一七九、三六八、七	一七九、三六八、七	一、二二七	二、六九八、六	五六一	一、二二七	一、二二七	一、二二七	一、二二七
六、四八一	六、四八一	六、四八一	一八〇、〇二六、二	一八〇、〇二六、二	一、二二八	二、六九八、八	五八九	一、二二八	一、二二八	一、二二八	一、二二八

(林業)

昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年	部分林			原野			森林附屬地		
			箇所	面積	其ノ他	箇所	面積	其ノ他	箇所	面積	其ノ他
四、七九四	四、七九四	四、七九四	一七、二七、六	一七、二七、六	一、二二八	六五、〇	一、二二八	一、二二八	一、二二八	一、二二八	一、二二八
五、〇八一	五、〇八一	五、〇八一	一七、四八、八	一七、四八、八	一、八五五	八六、九	一、八五五	一、八五五	一、八五五	一、八五五	一、八五五
五、四六一	五、四六一	五、四六一	一七、三六六、七	一七、三六六、七	一、六五	九九、五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五

空 國有地施業按

(昭和十四年四月一日現在)

事業區名	面積	針葉樹	闊葉樹	竹
總數	一七八、二〇五・二七	一〇、四七四・九三三	一四、七二〇・九八九	四三、一〇〇
東高	一、七二四・八一	九八、一五二	一、四四四・〇〇六	
人吉	一三、二六九・一三	一、四六六・六一二	一、七五一・七九一	
千	一、四七九・八九	一、一四、五三九	一、一八、五三七	
吹石	八、三三三・〇八	五五三、六一八	二五八、七三〇	二〇〇
石河	九、五〇六・四五	七三二、二九七	六八〇、〇八八	一、二、四九八
宮崎	九、七九二・四六	五七五、〇三九	五六五、八二五	一五、三八八
高宮	一五、一三七・〇八	九九〇、九一六	九三三、六五五	二、六四六
內高	八、〇一〇・三六	二九、九六四	七三四、八三七	
茶臼	五、二二八・二〇	一一五、六〇七	五四二、七六八	
須原	五、三〇六・〇二	三五六、六九六	三六九、九六九	一、八二六
高須	一八、四六九・一三	八三六、三一五	二、一五九、八三七	
原木	七、七四八・二〇	七八九、七四六	四五〇、五一五	

事業區名	面積	針葉樹	闊葉樹	竹
總數	八、四八一・〇二	二五一、八〇九	七八〇、一三三	七、三一
白	五、三四七・一七	四〇五、八八七	三六五、四〇八	二、八九三
霧島	四、〇六〇・八五	三三八、一三五	三〇〇、四一五	
高城	九、九四一・六六	二八三、〇〇五	七五三、六二五	一三五
都高	九、三一七・七〇	二〇七、九三九	九七五、五二七	
大福	四、六八二・四三	一三二、八八四	四八五、六八〇	
肥前	二二、一六八・三五	一、四〇五、五八四	一、九五五、七八八	一〇三
島口	一〇、〇六六・四〇	五八五、九九六	三五五、〇〇四	
大	二四三・八八	一四、一九三	二八、八七一	

六 保安林面積

(年末現在)

事業區名	總數	土砂停止林	水源涵養林	水害防備林	礫石防止林	其ノ他
總數	七、九九〇・八	二、〇八九・二	三、〇五五・三	一、四四・七	一、二二・八	二、〇二七・八
昭和十一年	七、一八二・六	二、〇六七・四	三、〇五四・八	一、四四・七	一、二二・七	二、〇三三・〇
昭和十二年	七、一五二・三	二、〇三三・三	三、〇五五・一	一、四四・九	一、二二・七	二、〇三三・〇

(林業)

六九 公有林野面積 (每三年調査)

昭和一十八年	昭和十九年	昭和二十年
總數	六三,四三〇・四	六七,三三九・四
縣有	三,一四八・一	四,一〇一・九
市町村有	三〇,三六二	三四,九〇七
部落有	二五,七八八・八	一九,一九四・〇
公共團體有	四,一九七・九	九,一三三・八
其他		

七〇 造林用苗圃面積 (年末現在)

昭和一十八年	昭和十九年	昭和二十年
總有	一三六,九六三	二二七,一七三
縣有	一四一,三三五	一四一,三三五
市町村有	六,二四五	五,三九〇
部落有	三,八三八	五,〇八五
組合有	三〇〇	二二五
個人及	一二五,六五八	一八六,七七四
其他		一九,七〇九

七一 造林用苗木 (年末現在)

數量	價額	數量	價額	數量	價額
總數		杉		扁柏	
數量	九,四二四,四六七	數量	七,一四四,四七五	數量	一,五九〇,八五〇
價額	二〇三,三九一	價額	二六,六四四	價額	二〇,四〇七

昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年
數量	一,四七二,八〇〇	一,三三三,七三三
價額	四,四七二	二,一〇一,三九一
數量	七,四八〇,〇〇〇	九,五五七,四一六
價額	四,四七二	二二七,四九九
數量	二,〇〇〇,〇〇〇	四,四四九,四〇四
價額	二,〇〇〇,〇〇〇	七〇,五八五
數量	四,二八三	一,二五五,四五〇
價額	三六三	一三,四一五

昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年
數量	一,四七二,八〇〇	一,三三三,七三三
價額	四,四七二	二,一〇一,三九一
數量	七,四八〇,〇〇〇	九,五五七,四一六
價額	四,四七二	二二七,四九九
數量	二,〇〇〇,〇〇〇	四,四四九,四〇四
價額	二,〇〇〇,〇〇〇	七〇,五八五
數量	四,二八三	一,二五五,四五〇
價額	三六三	一三,四一五

昭和十一年	昭和十二年	昭和十三年
數量	三,一三五	三,一三五
價額	七九	七九
數量	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇
價額	七九	八五,六三〇
數量	三,一三五	三,一三五
價額	七九	二,二八四
數量	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇
價額	七九	三,一〇五,八九〇
數量	三,一三五	三,一三五
價額	七九	四〇,六九五
數量	二,〇〇〇,〇〇〇	二,〇〇〇,〇〇〇
價額	七九	一七三,五三〇
數量	三,一三五	三,一三五
價額	七九	一,一〇〇,〇〇〇

(林業)



三 國有林植栽

昭 和 十 三 年 度	昭 和 十 二 年 度	昭 和 十 一 年 度	新植			補植		
			面積 ha	數量	經費 円	面積 ha	數量	經費
八四〇・〇七	二五七・五五	二七、九七一	一、〇四一・三九	三三二、一八〇本	?			
七九八・一四	一九七五、八五〇本	二七、三三四	八二八・三三	三八五、一二本	?			
八七三・二五	二、一〇一、一〇〇本	一七、一九四	一、三七七・五一	五八六、一八〇本	?			
	八・七五							
	一、九七四、五〇七本							

昭 和 十 三 年 度	昭 和 十 二 年 度	昭 和 十 一 年 度	公有			社寺有			私有		
			面積 町	數量	面積 町	數量	面積 町	數量	面積 町	數量	面積 町
三、二七・二	九、三六七、七四三本	五九七・三	一、四六六、二七〇本	二、八四〇・〇	二、八四〇・〇	七、八七二、八三三本					
三、一七九・〇	八、一〇八、二二七	四四八・三	一、一七五、六四五	七、三五〇	二、七二七・一	六、九二五、二三三本					
二、四四九・〇	六、〇九二、五九六	四二八・九	一、一四一、四一二	六、六五〇	二、〇一七・八	四、九四四、五三四本					

三 公私有林野植栽

四 公有林野天然造林

昭 和 十 三 年 度	昭 和 十 二 年 度	昭 和 十 一 年 度	總面積		針葉樹林		潤葉樹林		針潤混淆樹林	
			立木地	無立木地	立木地	無立木地	立木地	無立木地	立木地	無立木地
一、三七・二	二九・五	二八・〇	一、〇五・九	一、四・〇	一、〇五・九	一、四・〇	二、二・六	一、八・〇	二、二・六	一、八・〇
二八八・三	三一・五	五九・三	一、五二・〇	一、五・三	一、五二・〇	一、五・三	七、七・〇	七、七・〇	七、七・〇	七、七・〇
二〇三・六	七五・四	三七・六	三三・七	三三・七	三三・七	三三・七	六〇・一	六〇・一	六〇・一	六〇・一

五 私有林野天然造林

昭 和 十 三 年 度	昭 和 十 二 年 度	昭 和 十 一 年 度	總面積		針葉樹林		潤葉樹林		針潤混淆樹林	
			立木地	無立木地	立木地	無立木地	立木地	無立木地	立木地	無立木地
一、五九七・七	二〇二・一	二四七・九	一、〇一・九	九九・九	一、〇一・九	九九・九	五、四七・九	五、四七・九	五、四七・九	五、四七・九
一、五四五・〇	二〇六・二	一八・七	七、六三・七	一、一三・四	七、六三・七	一、一三・四	五、九九・六	五、九九・六	五、九九・六	五、九九・六
二、二四七・八	一三四・四	一七九・六	六、六〇・七	六二・九	六、六〇・七	六二・九	一、四〇七・五	一、四〇七・五	一、四〇七・五	一、四〇七・五

(林業)



漁

業

七十七里の海岸線

漁獲がザット八百萬(圓)

△

公私有林野放牧

(毎三年調査)

130

昭和十五年  
昭和十八年  
昭和十九年

二、二五四・五町  
一、二二二・八町  
一、二四六・三町

一、九六三・九町  
五三三・一町  
四九五・〇町

三〇〇・〇町  
三〇〇・〇町

八四〇・〇町  
五〇〇・〇町

八四九・一町  
二二六・〇町  
二二五・〇町

一、〇三〇・八町  
二〇六・一町  
二五〇・〇町

二九〇・六町  
六九〇・七町  
七五一・三町

一、三三二町  
四二三町  
二六二町

一、九三六町  
一、〇九一町  
七八四町

總面積

總面積

縣

市町村

部落

其ノ他ノ公共團體

私有

牛

馬

面積

放牧頭數

漁

業

七十七里の海岸線

漁獲がザット八百萬(圓)

△ 公私有林野放牧 (毎三年調査)

昭 和 五 年	昭 和 十 八 年	昭 和 十 一 年	面 積				放 牧 頭 數	
			總面積	公 有	私 有	牛	馬	
一、二四六・三	一、三二二・八	二、二五四・五	四九五・〇	三〇〇・〇	八四九・一	一、〇三〇・八	一、三三一	一、九三六
四九五・〇	五三三・一	一、九六三・九	三〇〇・〇	八四九・一	二九〇・六	一、〇三〇・八	四一三	一、〇九一
							二六二	七八四